

小樽市【北海道】 歴史文化基本構想

■策定年度:平成31年3月■人口:115,621人■市域面積:244k㎡
■担当課:小樽市教育委員会教育部生涯学習課(平成31年3月現在)

小樽市には、縄文時代以来の歴史・豊かな自然・近世近代の移住者が伝えた風習・まちなみを形成する歴史的建造物など、多様な暮らしの背景を持つ文化遺産が残されている。本構想では、まちのあゆみを物語る歴史文化・自然に関する文化遺産の情報を可能な限り収集し「小樽文化遺産」と名付けた。それらを「見出し、守り、伝え、使う」ことを基本理念としている。

5 歴史文化を表す

ニシン、港と鉄道、経済都市、「民」の力、 繁栄・衰退・再生の歴史

課題

- ・文化遺産の滅失や散逸の加速化
- ・文化遺産の保存管理・活用を推進するための体制整備

保存活用方針

- ・文化遺産の多様な価値を見出し、 特性に沿った保存と活用を図る
- ・文化遺産を支える人の輪を広げる
- ・文化遺産を活かしたまちづくり



保存活用のための取り組み

見出す―文化遺産の定期的・継続的な調査と研究を行う

これまで取り組んできた行政における枠組みを越え、市民はもとよりNPO法人やボランティア団体、民間企業、教育研究機関などとも幅広い協力・連携を図ることによって、多様な側面から、未指定も含めた潜在的な小樽文化遺産の調査・研究を行う。

守る一文化遺産の特性に沿った 保存と活用を図る

小樽文化遺産の現状と課題の把握に努め、保存管理を行うとともに、調査・研究により見出された文化遺産の存在と価値を、地域全体で共有するよう努める。活用の推進にあたっては、小樽文化遺産を活用した地域の魅力発信や観光振興など、まちづくりに活かす。

伝える一文化遺産を支える人々 の輪を広げる

小樽文化遺産の価値を見出し、保存管理の必要性について市民に周知するため、「小樽文化遺産」をキーワードとした情報発信やデータベースの充実と活用を推進する。構想そのものを含め、確実に情報発信を行える体制を整備し、ネットワークを広げるよう努める。

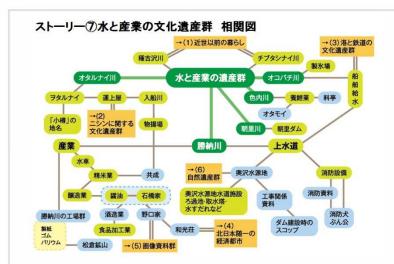
使う-文化遺産を身近な資源と して活用を図る

本構想の理念を踏まえ、市全体として保存管理を 実践し「小樽文化遺産」を活かした魅力あるまち づくりを推進する総合的な保存活用に係る仕組み づくりを検討するとともに、将来にわたって文化 遺産を地域全体で活用する機運を醸成する。



-

関連文化財群



ストーリー⑦水と産業の文化遺産群に含まれる小樽文化遺産の例



醸造業で財を成した 野口家の居館「和光 荘」(大正11年造)



奥沢水源地水道施設 「階段式溢流路(水すだれ)」(大正3年造)



火災現場で消防士を 手助けした「消防犬 ぶん公」(昭和初期)

小樽の歴史文化・自然に関する膨大かつ 多種多様な小樽文化遺産を広い視野で捉 え、文化遺産をとりまく関係性、相関性 をもとに複数の文化遺産を関連付けて結 び付け、小樽の歴史文化をめぐる8つの ストーリーに整理した。

なお、各文化遺産はストーリーを超え相 互に関連し合うため、構想ではその様子 を相関図で示した。

ストーリー

- ●近世以前の自然、地形を生かした暮らしの文化遺産群
- 2ニシンとともにやってきた文化遺産群
- ❸北海道の玄関として築かれた港と鉄道の文化遺産群
- ◆北日本随一の経済都市の面影を伝える 文化遺産群
- ⑤歴史を伝える画像資料群
- 6小樽の風土を象徴する自然遺産群
- ☑水と産業の文化遺産群
- ③民の力・協働と互助の文化を示す文化 遺産群

◆ 策定後の成果(見込まれる効果)

型 構想策定作業を通じて得来を通じて得来と、社会を開きた。 (本文) (本文

ータベースの構造



又化遺産に対する市民意識



構想策定を通じて、市内 にある潜在的な文化遺産 の存在が明らかになった。 これらの周知活動はとった。 会で特色のある歴史まれて 生活していると思うでは、 意識の充足・成熟につさと 意識の充らに、、一致に対する。 がる。 さらいとの継承者 育成も期待される。





遠野市【岩手県】 歴史文化基本構想

■策定年度:平成31年3月■人口:26,899人■市域面積:825.97㎢

■担当課:遠野市教育委員会文化課(平成31年3月現在)



遠野市は柳田國男の『遠野物語』によって「民話のふるさと」や「民俗学の聖地」として、全国的に知られてきた。また「遠野遺産認定制度」を平成19年度からスタートし全国的にもいち早く市民遺産制度を採り入れて、文化的なまちづくりに取り組んできた。こうした流れを継承し、「『遠野物語』を紡ぎ続ける遠野の未来創造」を大きなテーマとして、まちづくりを進めていく。

5 歴史文化を表す

『遠野物語』、民俗学と民話、南部曲り家、 城下町と街道、ふるさと

課題

- ・膨大な文化資産の保存・整備・活用
- ・文化財の継承の担い手不足
- ・文化財の公開活用と観光振興の更なる連携

保存活用方針

- ・地道な調査と整理の計画的継続
- ・市民協働による文化財の保存活用
- ・文化的景観の視点による総合的な 保存活用
- 多様な対象への情報発信

保存活用のための取り組み

地道な文化資産の調査と整理の 計画的継続の取り組み

市史編さん事業と連携し、これまで不足していた 重要な文化資産の調査を実施。博物館等で収蔵し ている膨大な資料の整理と保管のため、データ ベースの構築作業の継続と、安定的で一括管理が できる収蔵施設の整備を検討。遠野遺産認定制度 による未指定文化財の継続的な調査

市民協働による文化財の保存と 活用の取り組み

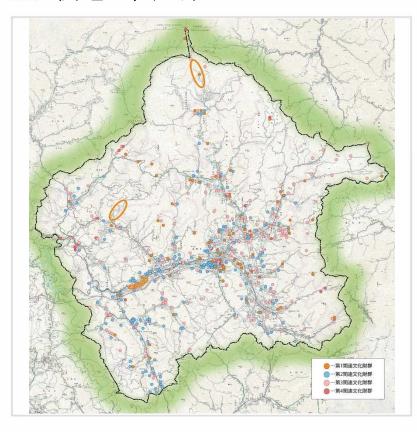
代表的な南部曲り家である重要文化財千葉家住宅の活用を検討する「重文千葉家の活用を考える会」及び、重要文化的景観土淵山口集落の住民組織「おらほのながめづくりの会」、各遠野遺産推薦団体、各郷土芸能保存会等との連携と必要な自立支援。

文化的景観の視点による総合的 な保存活用の取り組み

遠野全体が文化的景観であるという考え方に基づき、すでに重要文化的景観選定地となっている、 荒川高原牧場、土淵山口集落の整備を進める。重 要文化財千葉家周辺も追加選定に向けた準備を実 施する。遠野遺産認定制度による市独自の文化的 景観保護を継続する。

多様な対象への文化資産の情報 発信の取り組み

これまで遠野に一定数訪れていた欧米や、近年増加している台湾などの外国人に向けて、従来の紙媒体やHPによる情報発信の継続とサイン整備、すでに博物館に導入している多言語ガイド端末の活用を推進。文化財の活用整備には、VRやARの導入も検討する。



明治43年発刊の『遠野物語』は遠野に語り継がれた不思議な事象をまとめたもので、遠野市のまちづくりに大きな影響を与えてきた。これをキーワードとして4つの関連文化財群を設定した。『遠野物語』の背景となる原始・古代の文化財群、中世・近世の文化財群、『遠野物語』誕生の頃の文化財群、その後『遠野物語』を継承しながら近代化した時代の文化財群で、それぞれ『遠野物語』の文を名称に用いた。

ストーリー

- 1 「大昔はすべて一円の湖水なり」 原点となる想像的世界を生み出した自 然と原始・古代の文化
- 2 「山奥には珍しき繁華の地なり」 胎動となる骨格社会を形成した中近世 の文化
- ⑤「馬千匹、人千人の賑わしさなり」 誕生、地域の自負を育んだ明治期を中心とする文化
- ④「平地人を戦慄せしめよ」 民俗的世界の継承と新たな文化が融合 した近現代の文化

促進

策定後の成果(見込まれる効果)

・ 本構想を策定するにあた するにあた り、遠野市内の膨大なのの 関連文化財群、7つの歴 関連文化保存活用想は市内の膨大 大つの歴 理した。本構想はできる 文化としてき、地域を習いる 対としてき、地域を習いる 対としてき、地域を習いる が見込まれる。 とが見込まれる。



②文化を活かしたまちづくりの推

本構想の策定により、市 内の文化資産の保存活用 方針を明文化して示すと ができたため、行れ 関連団体と連携を強化・ ハード両面から一体的で 文化を活かしたまちでし 文化を活かしたまちずに りに取り組み、遠野存っ 整備、活用が推進される ことが見込まれる。



③文化観光の更なる振

今回設定した、関連文化 財群、保存活用区域を活 用して、保存活用で域のある多彩な観光モデルののコーランででで 表を設定する観光ニーブルでで 対応することが、市内のでで 対応するまた、トワークト は連携による観光コーム が連携による観光用 もなどによる観光用 もなどまれる。





名取市【宮城県】 歴史文化基本構想

■策定年度:平成31年3月■人口:78,672人■市域面積:98.17km ■担当課:名取市教育委員会文化・スポーツ課(平成31年3月現在)

海・山・平野などの豊かな自然環境や、恵まれた立地を背景に育まれた名取市の文化財は、東北最大の雷神山古墳に象徴される古墳文化や、全国的にも珍しい特徴を持つ名取熊野三社と熊野信仰に関わる文化財に大きな特色がある。これらをはじめとする貴重な文化財の歴史的価値や特性・魅力を、確実に未来へ継承するための保存・活用の基本的な考え方をまとめた。

5 歴史文化を表す

縄文のくらし、古墳文化、熊野信仰、旧街道の宿と山村・農村、港まち「ゆりあげ」

課題

- ・保存・活用の拠点整備
- ・未指定文化財の把握
- 基本台帳の整備
- 主体者間や関連施設との連携

保存活用方針

- ・歴史文化を未来へ伝えるための保 存・活用を推進
- ・保存・活用のための基盤整備
- ・関連文化財群を柱とした保存・活 用の推進



և 保存活用のための取り組み

指定・登録制度を活かした保存・継承

従来から文化財の保存・継承に大きな役割を果たしてきた指定・登録制度を活用し、今後もその充実を図るとともに、関連文化財群などとの一体的な保存・活用を推進し、歴史的価値や魅力などの確かな保存・継承を図る。



保存・活用の拠点整備

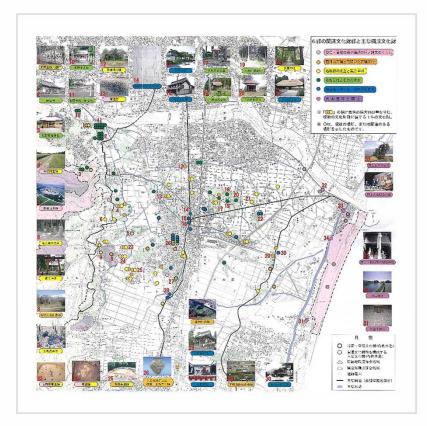
構想中に掲げた目標実現に向けて、基本方針に 沿った保存・活用の取り組みを推進するための拠 点施設の整備に取り組み基盤強化を図る。展示・ 公開をはじめ、学習交流や調査研究などの活動を 通じて、人・もの・情報を集め、繋げる拠点とす ろ

関連文化財群などの内容把握と 情報共有

指定・登録文化財や6つの関連文化財群とその構成文化財に重点を置き、計画的・継続的な調査・研究を行なうことで、基礎的な情報の蓄積や、歴史的価値や特性・魅力の把握などの情報基盤の強化に努め、その共有や周知を図り目標実現へつなげる。

市民参加や関連施設との連携推進と人材育成

行政・市民・関係団体などの保存・活用の主体者が、基本方針に沿った取り組みを主体的・継続的に行えるよう、拠点施設や関連施設の活用や活動への参加を促しながら連携強化に努めるとともに、次世代を担う人材を育成し保存・継承の体制の構築を図る。



恵まれた自然環境や立地を背景に、先 人達が育み守り伝えてきた多数の文化 財を、雷神山古墳に象徴される古墳文 化や熊野信仰関連の文化財をはじめと した、名取の歴史文化の特性や魅力を 物語るテーマのもとにグループ化し、 保存・活用の核となり、まちづくりや 観光振興にも活かせる6つの関連文化 財群を設定した。

ストーリー

- ●愛島・高舘の森や海辺の丘と縄文の
- ②雷神山古墳と花開いた古墳文化
- 名取郡の成立と実方中将
- 4 熊野三社と名取の老女
- ⑤増田宿と洞口家・旧中沢家住宅
- 6貞山運河と閖上

策定後の成果(見込まれる効果)

(1)

未指定のものや周辺環境 も含めた地域の貴重な歴 史文化や、その歴史的価 値・魅力の確かな保存・ 継承の実現のために、今 後も計画的・継続的に取 り組むべき事項について の基本的な考え方や方向 性、優先度を示す道標と なり、効率的かつ効果的 な保存・活用のための活 発な活動につながる。

道 標 لح

な

る



策定の過程や策定後の取

り組みにより、これまで 把握された歴史文化の価 値・魅力・特性の再確認 や、関連文化財群をはじ めとする「群」としての 新たな価値の創出、未指 定・未調査の歴史文化資 源の情報蓄積や、それに 基づく情報共有や周知に より、保存・継承への意 識や郷十への愛着の向上 顕 にもつながる。

在 化



動 を 担 う 体 者

を

繋

ぎ

育 7

策定過程や策定後の取り 組みにおいて、市民・関 係団体・文化財所有者な どとの協働や参加を得る ことで、行政も含めた保 存・活用を担うこれら各 主体者間の連携が生まれ、 地域づくりや観光振興の みならず、次代を担う人 材の育成にも資するもの となり、未来へ向けた確 かな保存・継承につなが る。





村山市【山形県】 歷史文化基本構想

■ 策定年度: 平成31年3月 ■ 人口: 24,175人 ■ 市域面積: 196.98㎢

■担当課:村山市教育委員会生涯学習課(平成31年3月現在)



村山市は、市の中央を最上川が南北に貫き、地理的に東西に分断されている。舟運の難所である最上川の 三難所(碁点、三ヶ瀬、隼)は市の名所にもなっている。東の甑岳、西の葉山と二つの麓に広がる最上川 東西の歴史文化を生かして地域の活性化や地域への誇りを持った人材の育成に活かしていく。

歴史文化を表す つのキーワード 交通の要衝、舟運の歴史、山岳信仰、 多彩な考古遺跡群、居合道

課題

- ・文化財保護の担い手の高齢化や後 継者不足
- ・文化財を観光振興等に活用でき るよう情報発信方法の改善が必要

保存活用方針

- 市民や民間団体との連携体制整備
- ・所有者や保存団体への支援
- ・文化財保存を担う人材の育成



և 保存活用のための取り組み

地域にある文化財を総合的に把 握

市民や学校が中心となり、勉強会や講演会、地域 巡りなどを実施することで地域にある文化財を総 合的に把握する。行政は市民や学校が中心となっ て活動できるよう、様々な方法で仲間作りの支援、 学習機会の創出などを行う。



地域の文化財の魅力を分かりや すく整理

関連する文化財を点から線、線から面へ繋いで 「関連文化財群」を設定する。そして、市民と行 政と所有者・保存団体が連携して、個々の文化財 の魅力に付加価値を付けるため関連文化財群とし て活用することを意識する。

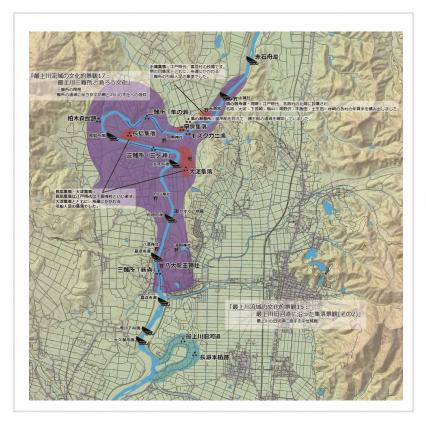


担い手育成を含めた次世代へ継 承する仕組み

所有者・保存団体は保存・継承・活用を推進し、 行政は市民や学校などを対象に周知のためのイベ ント開催や市民・子どもキュレーターの認定など、 それぞれが担い手育成を含めた次世代へ継承する 什組み作りを行う。

文化財保存・継承・活用の推進

文化財の調査研究を継続し、アーカイブシステム の整理・蓄積や文化財の指定などを行う。企業・ 民間団体が歴史文化分野以外の専門知識や技術を 活かして文化財の保存・継承・活用に指導・助言 や技術提供ができるように行政が仲介役となって 推進する。



最上川は、古くから生活や経済に密接に関わっており、流域のちょうど中間部に位置している村山市においては、舟道の開削に関する記録や、元禄15年(1702)に刊行された『おくのほそ道』で俳聖・松尾芭蕉が「ごてん・はやぶさなどと云おそろしき難所あり」と最上川三難所について記していることからも、歴史的にその存在価値が認められている。

ストーリー

- 「碁点・三ケ瀬・隼」の三難所に残る舟道の痕跡
- ②舟運に関わる生業を主とした大淀・ 長島・早房など集落の歴史
- 3難所を見守る神社への信仰
- 4 難所を利用した簗場など漁猟
- 5最上川の旧河道に沿った土地利用の 痕跡

策定後の成果(見込まれる効果)

①文化財の持つ多様な価値



)文化財を核とした地域の活性化

市民や学校が中心となり、勉強会や講演会、地域巡りなどを実施することがで地域にある文化財の価値の再発見をすることができる。行政は市民や学校が中心となって活動できるよう、様々な方法で仲間作りの支援をすることで、学習機会の創出などが期待できる。



③地域や各機関との連携協力

0

推

進





須賀川市【福島県】 歴史文化基本構想

■ 策定年度:平成31年3月 ■ 人口:75,853人 ■ 市域面積:279.43km ■ 担当課:須賀川市文化スポーツ部文化振興課(平成31年4月現在)



須賀川市では、市内各地域に存在する指定・未指定の文化財等を「歴史・文化資源(=地域の宝)」と位置付け、本市が持つ歴史を視座に、それらを明らかにすることを通し、地域に住む人々が誇りや愛着を持ってこれらの保存・活用に取り組むとともに、歴史や文化を生かしたまちづくりを進めていくための長期ビジョンとして策定した。

5 歴史文化を表す

交通の要衝、豊かな自然、古代・中世の戦略拠点、 「ひと」の結びつき、祈りの継承

課題

- ・歴史・文化資源に対する意識の 向上、資源そのものの周知啓発
- ・歴史・文化資源の保存・活用の 在り方についての検討の具体化

保存活用方針

- ・「大切にしたい」と思う心の醸成
- ・歴史・文化を生かしたまちづくり の仕組みの構築
- 体制の整備と連携の推進



保存・活用のための取り組み

歴史・文化を知る

歴史・文化に関する継続的な資料・情報収集と調査研究に取り組むとともに、デジタルアーカイブ化を検討する。また、歴史・文化の普及啓発を図るため、講演会等を開催するほか、住民や団体等

による研究成果等の発表等の支援を行うとともに、学校教育や 公民館等と連携しふるさと学習 の推進を図る。



歴史・文化をつなげる

貴重な歴史・文化資源を後世に引き継いでいくため、後継者育成に係る仕組みづくり及び映像による記録保存等の取組を推進する。また、防災・減

災及び防犯対策を推進する とともに、博物館等拠点とな る施設の整備と充実を図る。



歴史・文化を生かす

歴史・文化資源を市民協働により保存・活用していくため、市民文化遺産制度や市民歴史文化サポーター制度の構築を図る。また、ヘリテージマネジャー等の育成や学芸員等専門職員の確保と連

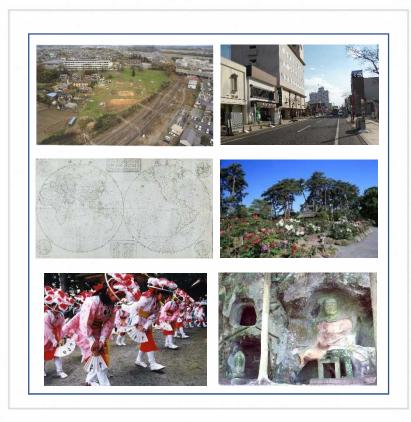
携を図るとともに、史跡や 名勝等の整備及び保全管理 を促進する。



歴史・文化を広げる

歴史・文化に対する興味関心が広げられるよう、データベースの活用による情報発信を図るとともに、統一した案内板などのガイドサインの再構築等を図る。また、多様な世代が歴史・文化に親しむ機会の創出を推進するとともに、民間団体や自治体等との連携を強化し、広域的な事業展開や情報発信を目指す。

歴史・文化の特性



須賀川市は、各時代の主要道が通るとともに、会津や浜通りにもつながる街道と交わる交通の要衝だった。このため、「みち」との関わりの中で「まち」が形成され、交流が盛んになることで、「ひと」と「ひと」との結びつきが生まれ、文化の黎明を迎えた。一方で、豊かな自然を背景に、民俗芸能や石造物が多く残され、守り伝える心が「さと」に息づいている。このことから、本構想では、歴史・文化の特性を以下の3点にまとめた。

歴史・文化の特性

- ①「みち」から広がる「まちづくり」
- 2「くらし」を織りなす「ひと」
- ❸「さと」に息づく「いのり」

の深

策定後の成果 (見込まれる効果)

策定にあたり、歴史・文 化資源についての各種調 を、また歴史や文化に関する講演会などを実施したことにより、市民に歴史や文化に対する理解や変帯をもってもらうきったがある。

今後も引き続き、市民からの情報提供や意見交換のなどを進め、歴史や文化理に対する理解や愛着を深めてもらうよう各種施策を進める。



・文化資源の総合的把提

策定にあたり、歴史・文 化資源に関する文献・資 料の整理及び市民へのア ンケート調査及び聞き取 り調査を実施し、歴史・ 文化資源の総合的把握を 目指した。

今後はこれらの情報を参考としながら、文献や資料の分類等について精査していくとともに、必要に応じて現地調査するなど、引き続き情報の収集、把握に努めていく。



)歴史・文化を生かしたまちづくり

本構想において、本市の 歴史・文化の特性や自 然・環境からの特徴など、 新たな魅力を発見するこ とが出来た。

今後は、歴史や文化を通した様々な表情を持つまちとして発信力を高めることが期待できるとともに、地域ならではの歴史・文化資源を生かしたまちづくりの推進が期待される。





会津美里町【福島県】 歴史文化基本構想

The state of the s

■策定年度:平成31年3月■人口:20,359人■町域面積:276.33km 型当課:会津美里町教育委員会生涯学習課(平成31年3月現在)

会津美里町は、会津盆地において早くから発展した「まほろばの里」である。古代仏教文化を伝える寺院が点在し、会津文化発祥の由来を持つ伊佐須美神社も鎮座する。中世の会津統治の軍事拠点「向羽黒山城跡」や近世の産業振興の核「会津本郷焼」等、会津統治においては重要な地域であった。これらの豊かな町の歴史文化を子ども達に伝え、地域づくり等に活かしていく。

5 歴史文化を表すっのキーワード

仏都会津とまほろばの里、会津文化発祥の地、中世会津の風景、会津本郷焼、幕府領と会津藩領

課題

- ・社会的要因による伝統継承の危機
- ・地域の魅力を認識する機会の不足
- ・住民の郷土への愛着不足
- ・行政としての保護の方向性の検討

保存活用方針

- ・歴史文化に対する意識の醸成
- こども達への地域教育の浸透
- 文化財の保存
- ・文化財の活用



保存・活用のための取り組み

歴史文化に対する意識醸成への 取り組み

講演会や調査等を通して、住民が地域の歴史文化の価値を自ら再発見する機会を創出し、その手法を構築する。また、住民が主体的に地域の文化財等の保存・活用に取組む為の制度やサポートする為の仕組みづくりを推進することで、シビックプライドの醸成を図る。

子ども達への地域教育の浸透へ の取り組み

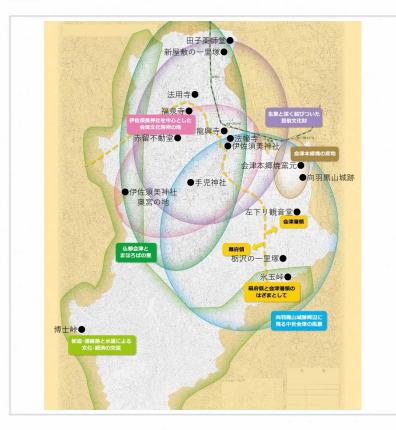
郷土への理解・愛着を育み、歴史文化の保護意識を次世代へ繋ぐ為、地域や学校と連携して子ども達が自ら住む地域を知り、体験し、親しむ機会をつくる。町歴史副読本等を活用し、校区ごとに異なる地域の特色を踏まえながら、町全体の歴史文化の理解へ繋げる。

文化財の保存への取り組み

住民と連携し、文化財の保存を継続して行う。また、文化財の保存を図るための支援や町からの情報公開、文化財の保存に必要な情報の発信等を行い、特に地域が主体となった文化財保護取組を支援する。この他、防犯・防災体制の強化や周知を図る。

文化財活用への取り組み

歴史文化を町特有の資源と考え、まちづくりに活かすとともに、それらを町内外に周知することでより広域的な活用を図る。「会津本郷焼」の歴史的価値の周知や調査・研究・保護拠点として郷土資料館(仮称)を設置する。「歴史的風致維持向上計画」の策定と認定を目指す。



会津美里町は「信仰」「中世城館」 「会津本郷焼」「街道と連絡路」等を 核とした関連文化財群が7つある。古 代には山岳信仰に加えて仏教文化が栄 え、中世では「向羽黒山城」が会津統 治の軍事的拠点となり、近世では「会 津本郷焼」による産業振興の地として 栄えた。これらの背景には、山間部に 残る「街道や連絡路」がある。

ストーリー

- ①仏都会津とまほろばの里
- 2 伊佐須美神社を中心とした会津文化 発祥の地
- ❸向羽黒山城跡周辺に残る中世会津の 風景
- 会津本郷焼の産地
- 賃街道・連絡路と水運による文化・経 済の交流
- ⑥幕府領と会津藩領のはざまとして
- ⑦生業と深く結びついた民俗文化財

策定後の成果(見込まれる効果)

味 関

0

醸

成

個別の文化財周知だけで なく、歴史文化の特色を 町の魅力として発信する ことで、町の魅力とその 背景にある歴史文化は一 体であることを住民が認 郷 識することが期待できる。 それにより、住民の文化 財に対するハードルを下 げる。加えて、子どもへ の地域教育を推進し、郷 土愛の醸成が図られる。



財 0 醸

文化財等について背景や 保存・活用例等を周知し、 住民が学ぶ機会を創出す る。それにより「古いか ら守る」から、文化財等 が祖先の生活の中から創 造された貴重な遺産で、 これまで人の手・心に よって守られてきたこと、 失うと再び得ることはで きないことを知り、文化 財保護の当事者意識が醸 成される。



寸 連 協 力体 制

 \mathcal{O}

強 化

文化財所有者・管理者を はじめ、行政や住民、専 門家等文化財に関わる立 場の者が、お互いに連携 して町の歴史文化の保 存・活用を行うことを方 向づけた。連携体制や役 割について明確化したこ とで、関連団体間での連 絡調整の強化が期待でき る。現在、行政内部の関 係課との連携協力体制が 構築された。





棚倉町【福島県】 歷史文化基本構想

■策定年度:平成31年3月■人口:14,113人■市域面積:159.93km ■担当課:棚倉町教育委員会生涯学習課(平成31年3月現在)

棚倉町では、平成26年に平安時代の山林寺院である「流廃寺跡」が国指定史跡に、中世の建造物である 都々古別神社本殿が国重要文化財に指定された。この指定を契機として、町民が身近な文化財を見つめ直す機運が高まり、地域固有の歴史と文化を守り、地域の活性化と魅力の増進に活かすことを目的として本 構想を策定した。

歴史文化を表す つのキーワード 南下し北上する文化の中継点、東北の玄関口と密教の伝播、 街道を守る城・復活の城、五穀豊穣を祈願する民俗芸能、 国学の伝統と近代教育の先駆け

課題

- ・文化財の把握と調査、保存と活用
- ・文化財の維持管理と修理
- ・過疎と少子化による担い手不足

保存活用方針

- ・文化財を"発見する"
- ・文化財を"守る"
- ・文化財を"伝えていく"
- ・文化財を"知る・楽しむ"

🛦 保存活用のための取り組み

把握の継続と総合的な文化財を 活用した取り組み

文化財を後世に継承していくため、より一層、学 識者や地域住民と共に協力し、調査・研究を行う ことで、文化財の正しい知識や理解の醸成・新た

- な文化財の活用につなげていく。
- ◎指定及び未指定文化財の調査 ◎総合的な文化財の活用
- ◎データベースの構築



観光資源として位置づける取り 組み

地域住民や保存団体、関係諸団体と共同で取り組 みながら、さらに文化財の価値の普及啓発、及び 観光資源として位置づける。

- ◎情報発信の充実
- ◎文化財を活かした観光促進と環境整備
- ◎他市町村、大学機関、芸術団体との連携
- ◎生涯学習においての普及啓発と活用

文化財の保全に関わる制度・体 制の構築への取り組み

専門機関や専門家の助言や学術機関との連携によ り、文化財の保全に関わる制度・体制の構築を 図っていく。

- ◎維持管理・修理
- ◎周辺環境の維持・向上
- ◎防災・防犯に関わること



歴史文化へ触れる機会を増やし、 郷土愛の醸成を喚起する

歴史・文化を継承していく志のある人材を集め、 多くの町民が棚倉町の歴史の語りべとなり、人か ら人へ歴史・文化を伝承するシステムの構築を図 る。

- ◎無形文化財等の担い手 の育成と支援
- ◎学校教育・生涯学習 との連携





棚倉町は、陸奥国と常陸国との境界という性格を有し、古来より久慈川沿いに人々が往来する交通の要衝であり、当町の歴史文化の根底に影響を与え続けている。古来より陸奥一宮または奥州一宮を称する2つの都々古別神社は、地域の広範囲から信仰を集め、貴重な文化財や民俗芸能を伝えている。東北への密教伝播を知るうえで重要な流廃寺跡や、街道を守る城、大名復活の城としての棚倉城は、まちづくりの重要な核である。

ストーリー

- ●2つの都々古別神社と豊作祈願
- 2陸奥国と常陸国の境界
- ③兵たちのせめぎ合い
 - -城郭の博物館 -
- ④江戸時代の絵図を持って歩ける城下 町
- 5 東白川郡の中心地
 - -棚倉の近代化と文化-
- 6 伝承や物語
- 7時の鐘回廊



策定後の成果 (見込まれる効果)

①文化財再発見への取り組



②郷土愛の醸成と交流

様々な情報発信により行政機関や地域住民との連携強化が図られ、観光ルートの整備や道法の環境整備が進んで源境整備が進んで表別の環境整備が進んで表別では対の公開や講外の会の参加者がみられる。文化財を活かした満りを活かした。 芸術団体からの参加を対した関学や芸術団体からの参加を対した。 芸術団体からの参加を対した場別を増え、地域住民とのできた。



③基本構想実現への取り





石川町【福島県】 歷史文化基本構想

■策定年度:平成31年3月■人口:15,318人■面積:115.71㎢ ■担当課:石川町教育委員会教育課(平成31年3月現在)

町域の文化財を保存・活用・継承していくために、そして、文化財をまちづくりへの活用に結び付けるた めに、本構想を策定した。基本理念「つなぐ・むすぶ~文化財の継承とまちづくりへの活用~」を念頭に、 基本方針を「知る」「つなぐ」「活かす」「伝える」の4本柱とし、「関連文化財群」を6項目(小項目) も含めて8項目)、歴史文化保存活用区域を5区域設定して、文化財の保存と活用を推進していく。

歴史文化を表す つのキーワード

文化の結節の地、阿武隈川東岸の遺跡群、中世石川氏、 東日本初の自由民権運動、地質資源(鉱物・岩石)

課題

- ・町民への発信力と活用の不足
- ・次代への確実な継承
- ・歴史文化及び地質資源を活かした まちづくりの推進

保存活用方針

- ・知る(調査・価値の共有化・情報 発信)
- ・つなぐ(保存・管理・整備)
- ・活かす(まちづくり・地域おこし)
- ・伝える(教育・人材育成)

🛦 保存活用のための取り組み

知る(調査・価値の共有化・情 報発信)

- ・文化財の継続的調査と価値の共有化
- 「石川町総合文化財情報」の構築
- ・調査研究成果の「見える化」(ホームページで の公開・企画展・書籍化等)



つなぐ(保存・管理・整備)

- ・「石川町指定文化財指定計画書」に基づく計画 的な文化財の指定
- ・防火・防犯体制の強化と定期的な巡視
- ・文化財の適正な保存



活かす(まちづくり・地域おこ

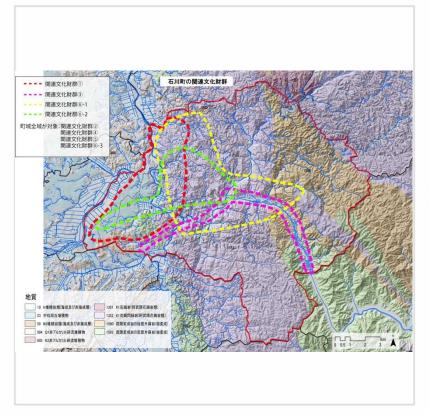
- ・関連文化財群の保存と活用
- ・歴史文化保存活用区域における文化財の保存と



伝える(教育・人材育成)

- ・文化財継承の担い手となる人材の確保と育成
- 各種事業・各種講座の実施
- ・学校教育及び社会教育との連携
- ・文化財公開展示施設の充実と文化財公開による 普及啓発の推進





本構想では、石川町の文化財を貫く最 も大きなテーマを「時代と文化の結節 の地「いしかわ」~ 石、美し、意思 ~」とし、本町の歴史文化の特徴であ る「文化の結節の地」「阿武隈川東岸 の遺跡群」 「中世石川氏」「東日本初 の自由民権運動」「地質資源(鉱物・ 岩石)」に、民俗芸能、生業と生産、 信仰を含め、6つの関連文化財群(ス トーリー)を設定した。

ストーリー

- ①人々の定住から「石川」誕生へ
- ②東北と関東の架け橋・中世石川荘の 世界
- 登街道と交通の発展
- 4自由民権運動発祥の地
- 大地に根差す暮らしと祈り
- 6いしかわの石の物語
 - -1:石川の大地と鉱物・岩石
 - -2:「いし」にまつわる戦争と平和
 - -3: 伝承高遠石工の技と関連石造物

策定後の成果(見込まれる効果)

歴史文化保存活用区域を 5区域設定し、さらに、 各地区に所在する文化財 地 の特性、現状に応じて、 を行う「まちづくり区 域」と、行政が地域と連 実 携または支援を行う「地 域おこし区域」の2区域 を設定したことにより、 各地区の実情に合った文 化財を活用した事業が展 開できる。

業展



関 心

高

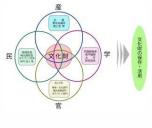
歴史文化基本構想に掲げ た具体的な取組、例えば、 関連文化財群をテーマと した文化財トレイルや、 文化財マップの広報・情 報発信等の推進により、 地域住民の文化財に対す る保存・活用への関心が 高まる。



官 0 連

協

町域の文化財の保存・活 用を、産・学・民・官が 連携・協働することに よって、情報や組織体制 の補完だけではなく、体 制の強化やマッチングに よる相乗効果等が期待で きる。このことは、基本 理念「つなぐ・むすぶ」 を具現化したものである。





牛久市【茨城県】 歴史文化基本構想

■ 策定年度: 平成31年3月 ■ 人口: 85,076人 ■ 市域面積: 58.92km

■担当課: 牛久市教育委員会文化芸術課(平成31年3月現在)



牛久市の歴史は旧石器時代から連綿と形成され、明治時代に開設された重要文化財シャトーカミヤ旧醸造場施設は日本初の本格的ワイン醸造場として、日本にワイン文化を定着させるとともに、日本の近代化に大きな貢献をした。市民がふるさとへの誇りと愛着を深め、文化財を保存・活用し、「暮らし続けたくなるまち」、「豊かな心と文化を育むまち」、「来訪者が再び訪れたいまち」を目指す。

5 歴史文化を表すつのキーワード

交通の要衝、内海、中世城郭、近代化産業遺産、近代芸術文化遺産

課題

- ・指定・登録文化財類型の偏り
- ・文化財の保存と活用の両立
- ・少子高齢化等により失われつつある文化遺産
- ・文化財の保存公開施設がない

保存活用方針

- ・郷土教育の推進
- ・歴史文化を活かした魅力あるまちづくり
- ・文化遺産の次世代への継承
- ・保存活用のための運営体制、施設の整備

MI

保存活用のための取り組み

『牛久市文化財ガイドブック』 の刊行

平成27年に刊行した『牛久市文化財ガイドブック』は、市内の文化遺産の悉皆調査の成果を纏めたもので、文化遺産のほか、公的施設、歴史ある社寺や伝承地などをプロットした市域全体の地図を掲載しているのが特徴。市ホームページからダウンロード・閲覧することが可能。



牛久歴史リレー講座の開催

文化財主管課と生涯学習主管課の連携により、毎年「牛久歴史リレー講座」と称し、第一線で活躍する研究者を講師として招き、受講する市民に対

し、牛久の歴史 文化の特徴をわ かりやすく解説 する講座を開催。



展示による公開活用事業の実施

常設の文化財展示公開施設を持たない牛久市では、かっぱの里生涯学習センター内のかっぱの 里ギャラリーなど利用し、所蔵文化財を展示し、

普及啓発に努めている。 また、民間企業とのコ ラボレーションで民間 施設を利用し、企画展 示を実施することで公 開活用事業を進めてい る。



重要文化財を活用したユニーク

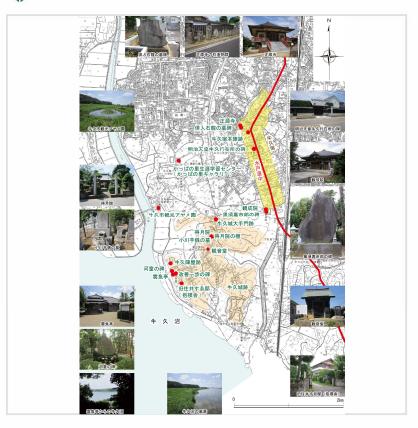
ベニュー

東日本大震災から復旧した国指定重要文化財シャトーカミヤ旧醸造場施設を会場に、牛久市初の大規

模3Dプロジェクションマッピングを実施し、 復旧した重要文化財の活用を図るとともに、 「ワインの街うしく」 の魅力を市内外に発信。



関連文化財群



牛久市は、中世から近代にかけて核となる文化遺産がある。中世においては、後北条氏と佐竹氏の境目の地として、市域を統治していた岡見氏の拠点である牛久城を中心に多くの城郭が築かれた。

さらに、近代にはフランスから導入した 知識と技術により、ブドウ栽培からワイン醸造、瓶詰めまで一貫して行なう日本 初のワイナリーであるシャトーカミヤ旧 醸造場施設が建設され、日本のワイン文 化の黎明期を支えた。

ストーリー

- ●内海と街道を結ぶ牛久の中世社会
- ②日本の近代化とワイン文化 ~文明開化の薫る町~
- ❸牛久沼のほとりで華開く芸術文化

策定後の成果(見込まれる効果)



文化遺産を活用した地域活性化



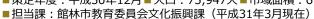
③文化財保護体制の充労

文化遺産を適切に保存活用するために、行政には 文化財専門職員が配置の 保存及び活用に関する文化財の 保存及び活用に関する文化財保護審議会が 有識者によって、適宜をれている。また、適宜とれ でや茨城県の文化財保護 部局と密に連携が図られていて、文化財保護体制 が整備、充実している。





館林市【群馬県】 歷史文化基本構想





館林市は、栃木県や茨城県、埼玉県と隣接あるいは近接する「境目」の地域としての地理的な条件や、市

内に存する大小河川や多数の沼、台地と低地といった地形的・環境的な要因により、特色的な歴史と文化 を育んだ。本構想では、本市の歴史や文化の特性を5つに整理し、それらを把握・整理し、キーワードを 抽出したうえで、それらが導き出すストーリーから8つの関連文化財群を設定した。

歴史文化を表す つのキーワード

水辺と台地が育む風土、「境目」の地域、 館林城と城下町、近郊都市文化、名所・名産品

課題

- ・防災、防犯など文化財保護体制の見直し
- ・関連事業、組織との連携強化
- ・文化財に関する情報発信、普及活動の強化
- ・文化財関連施設の適切な管理と機能の維持

保存活用方針

- ・文化財を確かに守り、伝え、適切に活用
- ・文化財の価値や魅力を調査研究し、広く発信
- ・文化財を守り活かす組織や体制などを整備
- ・文化財保存・公開施設に関する調査を検討

保存活用のための取り組み

文化財を活用した各種事業への 支援

文化財を活用した教材への素材提供、各種講座の 開催協力など、学校・社会教育活動への支援を 行っている。また、館林市の歴史文化の特性であ る「沼(辺)」を活用した事業など、文化財を生

かした地域活性化・産業振興 を目指した取り組みも行われ ている。



文化財保護・管理体制の再検討

歴史文化基本構想の策定や市史編さん事業など で蓄積された情報を活用し、各文化財の保護・ 管理体制の見直しを予定する。定期的な状況把 握、防災防犯体制の整備、地域住民との協力体 制の構築などを検討する。

文化財調査・研究事業の継続

社寺や美術工芸品など、現況の把握や調査研究が 十分でない分野の文化財について、引き続き調査 研究を実施する。また、それらに関する情報を適 切に維持・管理し、必要に応じて公開・活用でき るよう整理を行う。

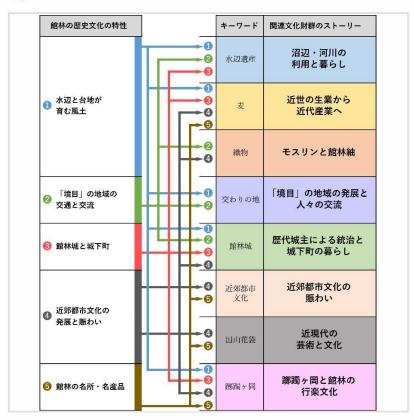
人と歴史文化の共生

館林市の歴史文化の特性である「里沼」と共生し た暮らしは、沼と人の関わりが育んだ。現在も沼

(辺)を保全し、得られた恵み(葦) を利用した年中行事(どんど焼き) が行われるなど、その関係は密接で ある。人と歴史文化の共生関係をこ れからも維持していく。







館林市歴史文化基本構想では、館林市の 文化財・歴史文化の特性から、それを表 すキーワードを抽出し、さらにそこから 導き出される8つのストーリーを関連文 化財群として設定した。

関連文化財群は、それぞれに館林市の歴 史や風土、地域性、産業や名産品、育ま れた文化などの各テーマを物語るもので ある。

ストーリー

- 1220・河川の利用と暮らし
- 2近世の生業から近代産業へ
- ❸モスリンと館林紬
- ④「境目」の地域の発展と人々の交流
- ⑤歴代城主による統治と城下町の暮らし
- ⑥近郊都市文化の賑わい
- ₯近現代の芸術と文化
- ❸躑躅ヶ岡と館林の行楽文化

策定後の成果(見込まれる効果)



文化財を活用した地域活性化

構想策定のため、館林市の文化財や歴史文化について改めて検討したことで、これまであまり注目されてこなかった地域の魅力が掘り起こされた。その成果は文化庁「日本遺産」認定申請にも反映されている。今後、館林市の魅力のPRや、観光・商工業などへの波及を目指す。



③文化財に関する市民意識

の高

掦

館林市の文化財や歴史文 化を関連文化財群として テーマ毎にまとめたこと で、市民が各自の興味関 心に応じて活用しやすい 学習素材を得ることがで きた。今後は、各種講と しても活用され、文化財 に関する市民意識のさら なる高揚が期待される。





富士吉田市【山梨県】 歷史文化基本構想

■策定年度:平成31年3月 ■人口:48,989人 ■市域面積:122km² ■担当課:富士吉田市まちづくり戦略課(平成31年3月現在)

富士吉田市は、富士山を中心とした豊かな自然環境に恵まれ、古くから富士山信仰のまちとして栄えてき た。富士山と密接な関係を持つ文化財を適切に保存し、次世代へ継承をしていくとともに、歴史文化の魅 力を活用して、地域活性化を図っていく。本構想では、「富士山信仰と寄り添うまち」をテーマとし、5 つの関連文化財群と7つの文化財保存活用区域を設定している。

歴史文化を表す つのキーワード 富士山、吉田口登山道、北口本宮冨士浅間神社と 御師町、織物産業、水

課題

- ・御師のまち並みなどの文化財の消失
- ・文化財がもつ複合的な価値の保存
- ・文化財に関わる担い手の減少

保存活用方針

- ・調査研究の充実及び保存整備の推進
- ・地域の歴史文化を活かしたまちづくりの推進
- ・保存・活用のための運営体制等の整備

🗘 保存活用のための取り組み

富士吉田市歴史民俗博物館のリ ニューアル

「富士山 - 信仰の対象と芸術の源泉 - 」として世 界文化遺産に登録された富士山信仰を中心に富士 吉田市の歴史文化に関連する展示を紹介。プロ ジェクション・マッピング等の技術を活用し、誰 もが親しみの持てる「ふじさんミュージアム」と してリニューアルを行った。

ボランティアガイドの育成

市民や観光客に地域の魅力をわかりやすく伝え、 各地域に所在する資源や展示施設へ興味を喚起し 回遊を促すための仕組みづくりとして、ボラン ティアガイドの養成を検討する。



ふじさんミュージアムにおける 文化財の公開活用

ふじさんミュージアムでは、富士山に関わる企画 展の開催のほか、「富士山学」と題した富士山の 自然や信仰等を学ぶ講座や体験型ワークショップ の開催等、誰もが親しみ、楽しく学べるイベント を行い、地域の歴史文化の普及啓発を行っている。

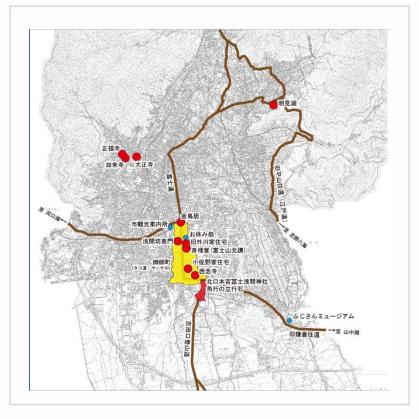


回遊ルートの整備

国道139号(富士道)沿い一帯は、御師の家が並 ぶ地区として知られている。誘導サインや案内看 板の整備等を行い、御師の家だけでなく、地区全 体で回遊できるルートの整備を行い、世界文化遺 産としての価値を一層高めていく。



♦ 関連文化財群



富士吉田市の歴史文化には、富士山の麓という厳しい自然環境にありながら、たくましく生き抜く人々の活動が2つの側面で見られます。一つは、富士講の隆盛とともに育まれてきた富士山信仰の歴史文化。もう一つは、噴火等の自然災害を避けながら、独自性のある豊かな暮らしを守り続けた人々の生活における歴史文化です。

ストーリー

- ①北口本宮と御師町が支える巡礼文化
- ②吉田口登山道にみる日本固有の信仰形態
- ❸富士山信仰を守り継ぐ祭礼文化
- ₫厳しい自然を生きる人々の生活と産業
- ⑤山・水とともに生きる人々の智恵と祈り

◆ 策定後の成果(見込まれる効果)

①地域住民の意識づくり

地域住民に地区の魅力を わかりやすく伝えること で、各地区に所在する資 源や展示施設へ興味を喚 起し、住民が積極的に参 加できる仕組みをつくり、 文化財の保存活用に関す る意識とまちづくりへの 参加意欲を高めていく。



②歴史的な街並み景観の保全との減後化いてる強並図

形

かつて約90件あった御師の家は現在約20件までに減少している。さらに伴い、文化財指定等を受けていくた財指定等を受けていくた機に直がが消失していく危機に直づくりなる。制度や組織づくりな街がみ景観の保全と形成を図る。

た地

域の活

性

文化財の保存活用と産業 や観光等の振興、地域活 動、学校教育などと連携 が図られ、多様な地域文 化の継承と地域の魅力づ くりが行われることで、 市の知名度・認知度向上 による交流の活性化が促 され、地域の活性化が図 られる。





上田市【長野県】 歷史文化基本構想

■策定年度:平成31年3月■人口:157,870人■市域面積:552km² ■担当課:上田市教育委員会生涯学習·文化財課(平成31年3月現在)

上田市は、古くから東山道等の主要道が通り、古代には国分寺が置かれ、中世には「信州の学海」と呼ば れるほどの仏教文化の発展や真田氏の活躍、近世末から近代にかけては蚕糸業による繁栄など、歴史上の 表舞台に出ることの多い都市である。それに伴う数々の文化財やそれを背景とした人々の気質を一体的に 捉え、まちづくりに活かしていくための構想である。

歴史文化を表す つのキーワード

仏教文化財、少雨、城郭、 蚕都 上田、リゾート開発

課題

- ・文化財の守り手・担い手の不足
- ・文化財周辺環境の保全
- 情報発信

保存活用方針

- ・公民館活動等での文化財関連事業
- ・文化財アーカイブ機能の充実
- ・市民団体等との協働

🗘 保存活用のための取り組み

市内9地域を核とした文化財保 存・活用体制づくり

上田市では「地域内分権」という考えのもと、9 つの協議会が設置され、地域ごとに地域課題の解 消や地域づくりを進めている。

文化財の保存・活用においても、この仕組みと連

携し、指定・未指定 の文化財を地域の核 としたまちづくりを 進めていく。



「文化財マップ」の充実

現在の文化財マップは屋外にある見学可能な建造 物・記念物のみを対象としているが、

美術工芸品や民俗文化財も、所有者 の同意を得ながら順次公開していく。



観光資源としての活用

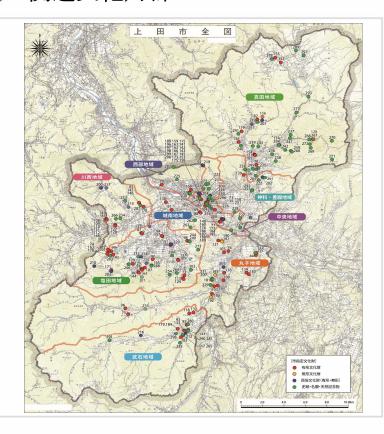
周辺環境も含めた文化財や関連文化財群を基に観 光協会やフィルムコミッションと連携し、滞在型 の観光パッケージの設定や映画等のロケ地として の発信を行う。

文化財保護指導委員の配置

文化財の巡視や所有者等への助言等を行う「文化 財保護指導委員」を新たに配置し、文化財の日常 的な管理の支援や防犯・防災対策等を行う人材の 充実を図る。



♦ 関連文化財群



現在の上田市を形成する歴史的要素として挙げられるものを6つのテーマにまとめ、関連文化財群とした。東山道などの街道筋という立地によってもたらされたものや、少雨地域という気候によるもの、真田氏の活躍などの歴史的事象によって特徴づけられるものなど、バリエーションに富んだストーリーとなっている。

ストーリー

- ①信濃国分寺と仏教文化財
- ②水と信仰の農業開発文化財
- ③真田氏の活躍と城郭文化財
- 4城下町と街道筋の文化財
- 5蚕都上田の文化財
- 6近代の保養・観光開発の文化財

◆ 策定後の成果(見込まれる効果)

①文化財を守り活用する体制現地には関連的には関連的には関連的に

現在組織されている市内 9地域の協議会単位において、文化財を守り伝え、 活用していく体制づくり を進めていく。併せて文 化財保護指導委員の配置 も進め、日常管理の支援 や防犯・防災対策を進め ていく。



文化財を学ぶ機会の創出

指定文化財を可能な限り インターネット上で知る ことにより気軽に地域の 文化財を知る機会を増や す。併せて公民館活動に おいても積極的に文化財 を取り上げるための働き かけを行うことについて 学ぶ機会を創出していく。



③地域活性化・観光資源での活用

関連文化財群などを基に、 指定・未指定に関わらず、 周辺環境も含めて観光資源として発信していくことにより、今まで知られていなかった地域の魅力に光を当てていく。それにより地域でもそれを核としたまちづくりに対する機運が高まり、地域活性化につなげていく。





草津市【滋賀県】 歷史文化基本構想

■ 策定年度: 平成31年3月 ■ 人口: 134,224人 ■ 市域面積: 68km² ■担当課:草津市教育委員会事務局歴史文化財課(平成31年3月現在)

草津市は東海道・中山道が分岐・合流する交通の要衝であり、史跡草津宿本陣に象徴される近世の宿場町 であった。中世末に琵琶湖の湖上交通を管理した芦浦観音寺や草津のサンヤレ踊り等、北部には信仰に関 わる文化財が残されており、南東には史跡瀬田丘陵生産遺跡群野路小野山製鉄遺跡等の古代の生産遺跡が 展開するなど、本市の多様な文化財をまちづくり等に活用していく。

歴史文化を表す つのキーワード ものづくり文化、船奉行芦浦観音寺、信仰文化、 宿場と草津宿本陣、街道と湖畔の港

課題

- ・文化財の公開・活用機会の創出と 情報発信の推進
- ・文化財の担い手の高齢化

保存活用方針

- ・文化財の総合的な保存・活用
- ・文化財を継承するための情報共有
- ・文化財の保存・活用のための体制 づくりの推進



≫ 保存活用のための取り組み

埋蔵文化財発掘調査報告会の 開催

毎年「草津の古代を掘る」と題し、1年間の発掘 調査成果の報告会を開催している。

毎年のテーマに合わせ当日には遺跡から出土した 遺物の展示・解説を行い、過去の発掘調査成果の 活用を図る。



文化財見学会・講座などの開催

市内外問わず依頼に応じて、文化財の見学・解説 や文化財に関する講座を開催している。

市内小学校では授業の一環として古墳等の見学会 を実施し、子どもたちの興味関心の向上を図って いる。

歴史文化の特徴に基づく整備の

草津市の歴史文化の特徴を活かし、文化財の案内 看板整備やまちあるき地図等の作成を推進する。 文化財を総合的にとらえることでウォーキング コースの策定等を行い、出かけたくなる魅力にあ ふれたまちづくりを推進する。

歴史文化の特徴に基づく 情報発信

草津市の発行する広報誌に本市の歴史文化の特徴 に基づき資料紹介等を行い、本市の文化財の情報 発信を行う。

市のホームページやSNSなど、目的に応じた媒体 を用いて情報発信の充実化を図る。

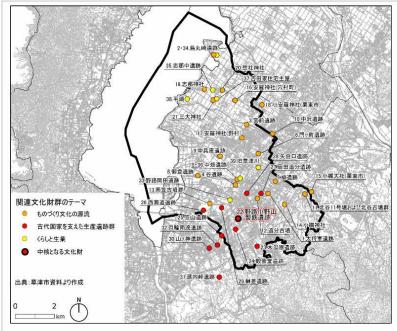


図4-8 歴史文化の特徴(1)生産の歴史文化 に関する歴史資産の分布

草津市では史跡瀬田丘陵生産遺跡群野路 小野山製鉄遺跡、史跡芦浦観音寺跡、史 跡草津宿本陣の3つの史跡を中核として 「生産」「信仰」「街道」の3つの歴史 文化の特徴を抽出した。これら3つの歴 史文化の特徴は、古代から変わらず本市 の特徴として育まれてきたものである。

ストーリー

- ●草津市域のものづくり文化の源流
- 2古代国家を支えた丘陵部の生産遺跡
- 3人々のくらしと本市の農耕・漁業等
- 4中世以前の信仰と伝統芸能・仏像・神像
- 協力を行として活動した芦浦観音寺
- ⑥中世以後の信仰と現在の寺社建築
- の人々が行きかう宿場と草津宿本陣
- 8草津市を形づくる街道と湖畔の港
- ⑨草津の宿場を取り巻く多様な文化
- ⑪街道を彩る名物・人物と近現代の交 诵路

策定後の成果 (見込まれる効果)

高

構想の策定を通して、草 津市の文化財について意 見を取りまとめたことに より、市民が草津市の歴 史や文化財に興味を持ち、 町の魅力を再発見する機 会を設けることができた。 今後も構想に基づき草津 市の歴史文化の特徴を活 かした取り組みを進める ことで、文化財保護意識 の高揚が期待される。



闸

これまで草津市では市域 の歴史文化について特徴 の抽出や全体的な保存・ 活用方針が策定されてい なかった。構想の策定に より、草津市の歴史文化 の特徴が明らかとなった ことで、一体的なまちづ くりの方法を検討し、草 津市の魅力をまちづくり や観光等への活用が期待 される。



地 連 0 推 淮

草津市に所在する様々な 文化財は、これまで種別 ごとの指定等により保護 が図られてきたが、構想 の策定により地域ごとの 文化財の分布や特徴が明 らかとなった。このこと により、個々の文化財の 活用だけなく、地域と連 携した取り組みの推進が 期待される。





泉佐野市【大阪府】 歷史文化基本構想

■策定年度:平成31年3月 ■人口:100,596人 ■市域面積:57km² ■担当課:泉佐野市教育委員会文化財保護課(平成31年3月現在)



泉佐野市の歴史文化は中世荘園「日根荘」をはじめ、数多くの歴史遺産資源を育みました、市域を取り囲む 海・川・野・山の豊かな自然景観を基盤として、これらを泉佐野市特有の「いずみさの文化」として、その 誇りを地域の人々とともに発信していきます、そしてこの先10年、20年後も、これらの歴史文化資源を 周辺環境と一体的な活用を図り、継承していくしくみを構築しながら、地域住民の郷土への愛着と歴史文 化の価値の維持を目指します。

歴史文化を表す つのキーワード

海が育む職能・伝統、川が築く堰・道・王子・城、 野に開く荘園の実り、山のくらしと信仰、 海・川・野・山が育んだいずみさの文化の誇りを未来につなぐ

課題

- ・新たな登録・認定制度の検討
- ・人口減少や少子高齢化による文化 財管理体制の弱体化
- ・地域住民と行政の協働

保存活用方針

- ・指定文化財等の経過観察
- 未指定文化財等の調査の推進
- ・学習、体験の機会の充実
- ・担い手の確保・育成・活躍支援



保存活用のための取り組み

歴史・文化公開施設の機能の充 実

「市立歴史館いずみさの」では「日根荘」に関する展示 を常設展とし、荘園のテーマ館として運営している、 本館を拠点としながら、他の公開施設や文化財と協 働で積極的な普及啓発に取り組むことを検討する。



学習・体験の機会の充実

本市の歴史文化の価値を市民や多くの人々が理解、 共有し、更により深く探るため、講演会や学習会、 ガイドツアーの実施を進める。また、学校教育とも 連携しながら、子ども達が本市の歴史文化を学ぶ機 会を充実することで、将来の担い手育成へとつなげ

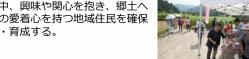
文化観光への活用

市内全域に点在する歴史文化資源をストーリーの中 でつなぎ、周遊・体験がしたくなるプログラムの作 成を進めるとともに、それに必要となるルート整備 や観光まちづくり等に取り組む。さらに、関西国際 空港や泉佐野駅を中心とした歴史文化の発信、多言 語化など、インバウンドの受け入れ環境の整備を進 める。

地域住民と行政による協働の仕 組みづくりの構築

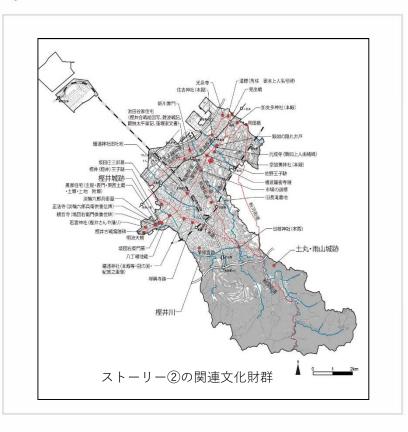
行政だけでなく地域住民も巻き込んだ取り組みが重 要であることから、多様な局面における協働の仕組 みづくりを構築する。市域全体で少子高齢化が進ん でおり、歴史文化資源の保存・活用に取り組む担い

手の減少や高齢化も危惧される 中、興味や関心を抱き、郷土へ の愛着心を持つ地域住民を確保



111111

関連文化財群



海、川、野、山の4つの特性を拠点として生業や暮らし、信仰や祭礼などが育まれてきた。これらは歴史的・地理的に密接かつ複雑に関連し合っている。そしてこのつながりや影響を生み出し、さらなる発展を支える背景として、市内を縦横に走る街道がある。海~野~山を結ぶ粉河街道や熊野街道が主要な役割を果たし、「いずみさの文化」をつくりあげてきた。

ストーリー

- ①「茅渟海」と「さの町場」
- ②「樫井川」と「土丸城・樫井城」
- 3「九条家」と「日根荘園」
- ④「犬鳴山」と「修験」

策定後の成果 (見込まれる効果)

)地域活性化の促進

市内に所在する歴史文化資源を、相互に関連するまと まりとして整理し、本市の文化・伝統を語るストーリーを策定する。このストーリーに登場する文化財群を総合的に整備・活用することで地域の活性化が見込まれる。



②地域活動等。

を担う地域が行う活動について、専門的な見地から保護措置についてのアドバイスや詳細な情報提供などの活動支援事業が図られつつある。これらが充実していくことで地域全体の継続可能な歴史文化資源の保護と活用が進められる。

今後、歴史文化資源の保護

への支援



③今の暮らしを見直

今の暮らしや文化がどのような成り立ちや出来事を経てきたのか、現在においてどのような形で継承されているのかを記載することで、そこから泉佐野の歴史文化を身近なものとして興味を持つことを促す。





大阪狭山市【大阪府】 歴史文化基本構想

■策定年度:平成31年1月 ■人口:57,792人 ■市域面積:11.92km

■担当課:大阪狭山市教育委員会教育部歴史文化グループ(平成31年3月現在)

大阪狭山市のシンボルである狭山池は、日本最古の溜め池としておよそ1,400年前から地域の人々の生活を支えてきた。本市域のほぼ中央に位置する狭山池の周辺には、古代以来多様な歴史と文化が連綿と育まれ現在へ受け継がれている。豊かな歴史文化を次世代に引き継ぎ、市民、地域、行政などのあらゆる主体が協働して歴史文化を活かしたまちづくりに取り組む。

5 歴史文化を表す

狭山池、藩と陣屋、歴史街道、 豊かに残る地名、鉄道の開通とニュータウンの開発

課題

- ・管理・継承する者がいない歴史文化遺産の 保存とそのための人材育成
- ・観光などへの歴史文化遺産の効果的な活用
- ・地域ぐるみでの活用の取り組み

保存活用方針

- ・協働による歴史文化を活かしたまちづくり
- ・歴史文化の魅力をともに探求しともに学ぶ
- ・歴史文化の魅力をともに共有しともに育む
- ・歴史文化の魅力をともに高めともに活かす



保存活用のための取り組み

郷土に対する誇りと愛着を深め る取り組み

関連文化財群の存在を周知し、市民に認識していただき、地域の歴史を創造してきたものとしての 意義や魅力を学んでいただく事業を行う。これに

よって、市民に自分 たちの宝物であるとい う意識を育み、郷土に 対する誇りと愛着を深 める取り組みを進める。



ふるさと学習を充実する取り組 み

学校教育や生涯学習において、ふるさと学習を充実させ、子どもから大人まで幅広い層の人たちが本市の歴史文化遺産について学ぶ機会の充実に努

め、公民館や図書館などとも 協力して様々な情報の提供を 通して積極的にふるさと学習 の充実に取り組む。



市民団体の活動を支援する取り 組み

市民や市民団体が、主体的に歴史文化遺産を活か した事業やイベントを開催したり、歴史文化遺産 周辺の清掃や草刈りといった周辺環境の維持を

図ったりする取り組みが見られる。このような市民や市民団体の活動に対して、支援する取り組みを行う。

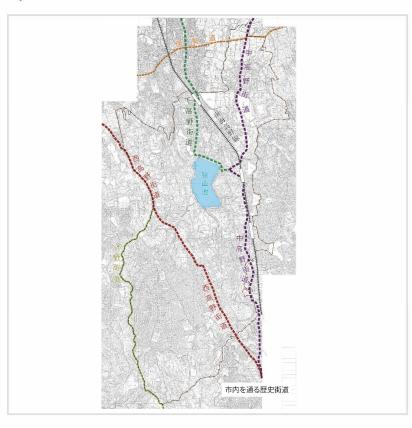


関連機関との連携強化の取り組 み

市のシンボルである狭山池と、狭山池から出土した遺構や遺物を展示する大阪府立狭山池博物館の 魅力を一層アピールするため、市教育委員会と大

MDを一層アピールするため 阪府が連携を密にして、さら なる魅力の発信と外国人来館 者への対応の充実などに取り





大阪狭山市には、日本最古の溜め池であ る狭山池が所在する。式内社であり狭山 池を神格化した狭山神社が代表するよう に、古代以来、人々は狭山池と共に豊か な歴史文化を紡いできた。中世の高野街 道の成立、近世の狭山藩北条氏の陣屋構 築、近代の狭山ニュータウンの開発など、 本市では時代ごとに様々な物語が生み出 されている。

ストーリー

- ・助ける・助りる・助りる・助りる・助りる・助りる・助りる・助りる</li り狭山池
- 2式内社周辺の重層的に蓄積する歴史 文化
- 高野街道等の信仰・交通
- 4狭山藩による武家文化
- ⑤近代化によって生まれた新たな文化

策定後の成果(見込まれる効果)

関連文化財群とストー リーの設定は、大阪狭山 市を代表する歴史文化を / 関連文化財ごとにストー 魅 リーを設けて、豊富な図版によってわかりやすく 見せるもので、歴史文化 遺産を媒体として市の魅 力を発信するツールとし 信 て活用できるものである。 0 ツールとして



本的

大阪狭山市歴史文化基本 構想には、歴史文化を活 かしたまちづくりの方向 性や進め方以外にも、大 阪狭山市の概要や歴史文 化の変遷、文化財調査の 取り組みや本市の歴史文 化の特性なども記載され ているため、学校教育や 生涯学習のための歴史講 座において、テキストと して活用できるものであ る。



関 心

> 0 高 ま n

狭山池や狭山藩関連の有 名な歴史文化遺産だけで なく、地域によって守ら れ今に伝わる身近な存在 であるものが、実は貴重 な歴史文化遺産であると いう発見を通して、地元 で改めてそのような歴史 文化遺産について学び、 守っていこうという機運 の高まりがみられ、他の 地域にも広がることが期 待できる。





益田市【島根県】 歷史文化基本構想

■策定年度:平成30年度■人口:46,532人■市域面積:733km ■担当課:益田市教育委員会事務局文化財課(平成31年3月現在)



益田市は山陰地方の最西端に位置し、いつの時代も様々なレベルでの「中央」から遠く離れた「辺境」あ るいは「境界」の地であった。しかし、「辺境」「境界」であることは、政治的には重要な地域であり、 また中国大陸や朝鮮半島に対する最前線であったため、政治的な自立性が高く、豊かな山林資源を背景に 日本海交易を活発に行うなど独特の気風を形成してきた。

歴史文化を表す つのキーワード 「境界」の地、中世益田氏と雪舟、日本海交易の最前線、 豊かな山と川の恵み、「過疎」発祥の地

課題

- ・歴史文化の普及啓発
- 歴史文化の情報発信
- 歴史文化の活用
- 人口減少の中での歴史文化の継承

保存活用方針

- ・歴史文化の価値と魅力を知り、共
- ・歴史文化を守り、次世代に伝える
- ・歴史文化を活かし、輝かせる

💎 保存活用のための取り組み

みんなで歴史文化の価値と魅力 を知り、共有する

歴史文化基本構想の策定過程で市民が主体となり 実施した総合的把握調査は、歴史文化とその構成 要素である文化遺産、地域・地区の個性を見つめ 直す機会となった。

引き続き総合的把握調査を 実施し、地域の歴史文化の 再発見と共有をはかる。



みんなで歴史文化を守り、 次の世代に伝える

益田市では、特に山間部を中心に、人口減少と高 齢化により、これまで地域で支えてきた歴史文化 の継承が困難になることが想定される。

地域の歴史文化を次の世代に 継承するために、ふるさと教 育・生涯学習の機会を充実さ せ、また地域間交流を進める。



みんなで歴史文化を活かし、 さらに輝かせる(観光振興)

歴史文化基本構想により、従来の益田市の点とし ての観光拠点を結びつけ、線につなげ面に展開し てパッケージとして売り出すことができる。

市内では関連文化財群や 歴史文化保存活用区域を活 かした観光ルート、また市 外・県外と連携した広域周 遊ルートの整備を進める。



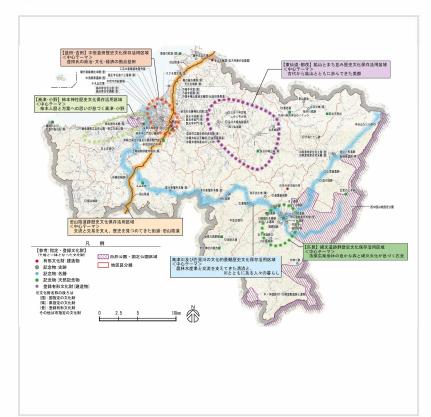
みんなで歴史文化を活かし、 さらに輝かせる(地域振興)

益田市の各地区は、それぞれ特徴的で魅力的な歴 史文化を有しており、これを活かすことで魅力的 な地域づくりを行うことが可能となる。

歴史文化を活かした景観整 備やお土産物開発、情報発 信拠点の整備などの支援を 進める。



歷史文化保存活用地区



益田市では、中国山地、高津川・匹見 川・益田川、そして日本海によって形成 される複雑な地形により、地域ごと、時 代ごとに個性ある歴史文化が育まれた。 こうした地域と時代ごとの、また地域と 時代を横断した歴史文化を、まとまりと して活用するために、12の関連文化財 群と、6の歴史文化保存活用区域を設定 した。

ストーリー

- ①中世益田歴史文化保存活用区域
- ②柿本神社歴史文化保存活用区域
- 3鉱山とまち並み歴史文化保存 活用区域
- 4 縄文遺跡群歴史文化保存活用区域
- 高津川及び匹見川の文化的景観 歷史文化保存活用区域
- 6 旧山陰道歴史文化保存活用区域

策定後の成果(見込まれる効果)

誇りと愛着が醸成され、

地域に住み続けたい、あ るいは地域に貢献したい という思いが生まれるこ とが期待される。 このような地域への誇り と愛着は、人口減少対策 や地域の維持にとっても 重要な意義を持つと思わ れる。

0 醸 成



益田の豊かで、全国に誇

ることのできる歴史文化

を知ることで、地域への

0

歴史文化と文化遺産の把 握と共有、防災・防犯体 制の整備により、それら が着実に継承されるよう、 取り組みを進める。

また、人口減少や少子高 齢化により地域での継承 が困難になっている歴史 文化や文化遺産について も地域間交流等を進める ことで、継承することが できるよう支援を進める。



史 を か た観光・

地 域 振 駔

歴史文化基本構想により 明らかになった益田の歴 史文化の特色をもとに、 観光資源のパッケージ化 や地域のブランド化を図 り、観光振興・地域振興 を進める。

また、景観整備や文化財 建造物の活用、体験活動 等も進め、交流人口の拡 大につなげる。





笠岡市【岡山県】 歷史文化基本構想

■担当課:笠岡市委員会生涯学習課(平成31年3月現在)



歴史文化を自然と景観・生活と産業・祈りと信仰・文化・政治・交通と交易の6分野でとりまとめた。そ こから、歴史文化の特徴が分かりやすく伝わることや、これまでの保存・継承の取組を踏まえ、「海と生 きる」と「受け継ぐ伝統と自然」という特徴のもとに6つの関連文化財群を設定した。関連文化財群の魅 力を伝え、歴史文化の保存と活用を効果的に図ることを目指しストーリーを作成した。

歴史文化を表す つのキーワード

海と陸の道、港町、笠岡諸島、 干拓と治水、伝統と自然の継承

課題

- ・歴史文化遺産の価値の浸透
- ・歴史文化を保存・継承する担い手 の減少
- 多様な保存活用主体間の連携不足

保存活用方針

- ・歴史文化遺産の把握と価値の共有、 魅力の発信
- ・保存・継承、活用の仕組みづくり

💎 保存活用のための取り組み

歴史文化遺産を通じた郷土への 愛着を育む取り組み

「ふるさと再発見事業」、「子ども歴史教室」な どを開催し、子どもたちに笠岡市の歴史や文化財 について理解を深めてもらい、郷土への愛着の醸 成につなげている。



人材育成の取り組み

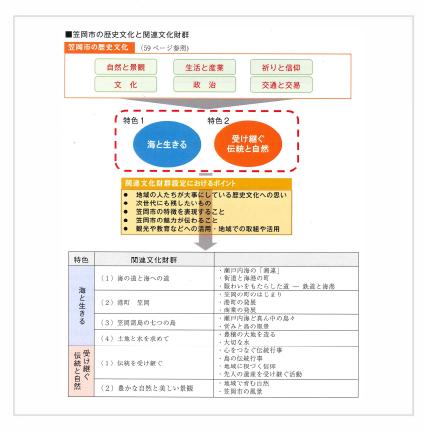
観光案内や文化財巡りツアーを実施している観光 ガイドボランティアの活動に対して支援を行って いる。また、新たにかさおか観光応援サポーター の養成も始め、広く市内の歴史文化遺産を普及啓 発する人材を育成している。

歴史文化遺産の保存の取り組み

文化財を保存していくために、保存・継承団体に 対して資金面だけでなく後継者の育成事業など、 様々な面から支援している。また、文化財の維 持・管理等を地元住民と共に担うことによって、 文化財の保存活用への積極的 な関与を促している。

市民が主体の取り組み

市内各地区に、文化財を守り、活用する取り組み を行っている市民団体がある。それぞれに、地区 の歴史等について調査しその成果を公開している。 また、地元の文化財や先人たちの顕彰活動にも取 り組んでいる。



笠岡市の歴史文化を語るうえで必要不可 欠な「海」と、これまで大切に受け継い できた「伝統と自然」を軸に、関連文化 財群を設定した。文化財、伝統や自然だ けでなく、それを継承している地域の人 たちも含めて笠岡市の財産である。 また、関連文化財群をストーリーと結び つけることで、市民の誰もがそれについ

て語ることができるよう配慮した。

ストーリー

- 1 油の道と海への道
- 2港町 笠岡
- ❸笠岡諸島の七つの島
- ⁴土地と水を求めて
- □伝統を受け継ぐ
- ⑥豊かな自然と美しい景観

策定後の成果(見込まれる効果)

テーマ性を持って地域の 歴史文化遺産について情 報発信ができるように なった。そのため、本市 の歴史や文化の特徴が明 確になり、広く市民と共 有できるようになった。 さらに、歴史文化を語る 上で重要でありながら、 あまり知られていなかっ た文化財についても、関 心を高めてもらうことが 期待できる。

価 値 0 顕 在



文化財の保存活用団体や 地域住民を巻き込んで策 地 定を進めたことで、団体 域 ょ 活用 **の**

活

発

間及び市と団体とのつな がりが強化された。市民 が策定に関わったことで、 関連文化財群及びそのス トーリーについて、浸透 を図っていくことが容易 となった。さらに、本構 想をもとにして、地域住 民自らが、関連文化財群 の保存と活用を進めてい くことが期待される。



市 \mathcal{O} 施 連 庁内の関係部署と調整を 図りながら構想の策定を 進めたことで、市の総合 計画をはじめ各種計画に、 構想に基づいた歴史文化 遺産の保存活用について 盛り込むことができるよ うになり、様々な施策と の連携を図ることが可能 となった。





防府市【山口県】 歷史文化基本構想

■策定年度:平成31年3月 ■人口:116,283人 ■市域面積:189.37km

■担当課:防府市教育委員会(平成31年3月現在)



防府市には、山・海・川・平野が織りなす多彩な環境で培われた文化があり、瀬戸内地域の政治・経済の 中枢であり続けてきた歴史がある。こうした環境に育まれた地域文化を代表する「文化財」を地域に宿る 価値の体系としてまとめ、「地域らしさ」の魅力として打ち出していく指針を提示した。文化財の保存・ 活用の活動が各地域で人とアイデアがつながる契機となり、まちづくりに寄与する取り組みをおこなう。

歴史文化を表す つのキーワード

自然環境に育まれた文化、継承される伝統産業、 瀬戸内の景勝地、交通の要衝、国府の継承都市

- ・地域文化を捉えきれていない
- ・文化財に関わる人材の不足
- ・文化財の価値が知られていない
- ・関連機関との連携が不足している

保存活用方針

- ・総合的把握調査の促進
- 文化財保護に関わる人材育成
- ・文化財で地域をつなぐ
- ・文化財で地域を活かす



🤝 保存活用のための取り組み

身近にある文化財の良さに気づ ける企画の実施

生活スタイルに浸み込んでいて普段は意識してい ないものを文化財として見直し、それが地域に根 ざした歴史文化と結び付いていることに気づく体 験は、自らのアイデンティティを確保することに つながる。こうした個々の気づきを集め、地域ら しさの良さを地元で共感でき る企画を実施する。



文化財保護に関わる人材育成の 推准

NPO法人等と連携して、文化財保存・活用に必要 な専門的知識や経験を習得できる講習や研修をお こなう。文化財に習熟した人材育成を計画的に推 進できるように地域社会に働きかけていく。



文化財で地域をつなぐ

各地域にある共同体の暮らしや産業を支えてきた 歴史的な中核施設(邸宅跡、寺社、産業施設等)を 利用して「文化財活用拠点」を設置し、地域ゴ ミュニティの活性につながる文化財の継承活動が できるように地域住民と協働で取り組む。



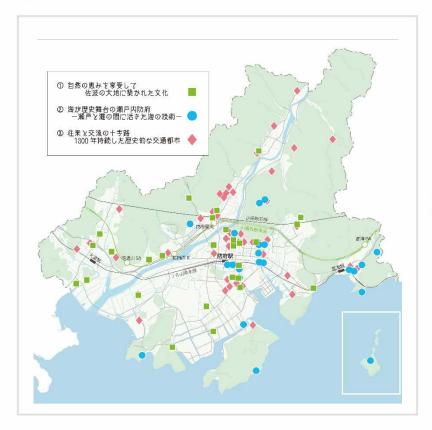
地域で文化財を守る

所有者個人で継承できなくなった地域にとっても かけがえのない文化財を、地域社会や文化財に関 心がある支援者が協力して守っていくことができ る体制を構築する。日常的にも住民や支援者によ る文化財の見回りを定期的におこなって、保存・

活用において留意すべき課題等 を地域社会で共有できるように 計らう。



奈 関連文化財群



地元の文化財の価値や魅力を「防府らしさ」を醸しだすものとして知ってもらい、文化財の活用を促進するための方策として関連文化財群を設定した。現段階で、大テーマが3、中テーマが6、小テーマが16項目の構成としており、全体を通して防府市が「時代を越えて人々の心を惹きつけ、魅了してきた都市文化の継承地」であることを表現する。

ストーリー

- 1自然の恵みを享受して 佐波の大地に築かれた文化 [山・川・大地] 技術・素材・景観
- ②海が歴史舞台の瀬戸内防府 一瀬戸と灘の間に活きた海の技術─ [海] 潮流・航海・港・安全
- ③往来と交流の十字路 1300年持続した歴史的な交通都市 [人] 来訪者・定住者・在来者

🤝 策定後の成果(見込まれる効果)

の組みを強化



文化財を通して防府の魅力を語れる仲間が増えていく展開となる機運を醸成する。



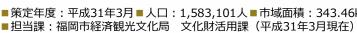
③関連部局との連携強な





福岡市【福岡県】 歷史文化基本構想

■策定年度:平成31年3月 ■人口:1,583,101人 ■市域面積:343.46km





福岡市は、歴史文化基本構想として「福岡市の文化財の保存活用に関する基本方針」を策定した。本市は、 海を通じた交流を軸にアジアの交流拠点都市として発展を遂げた2000年を超える歴史文化の重層性を特 徴とする。本方針は、この歴史文化を物語り、市民が過去から受け継ぎ、次世代に伝えたいと思う「も の」「ばしょ」「いとなみ」を文化財と捉え、これらを「知る」「守る」「活かす」取組みを通じ、都市 の活力と魅力の創出をはかることを述べる。

歴史文化を表す つのキーワード 始まる-日本初、賑わう-都市、繋がる-往来、 護る-戦と防衛、支え合う-都市と村々

課題

- ・地域の変容等がもたらす文化財の 価値認識の変化への対応
- ・文化財のあり方の多様化への対応
- 観光等の資源としての活用

保存活用方針

- ・文化財を「知る」「守る」「活か す」取組みサイクルの好循環化
- ・保存活用に関わる多様な主体の力 の向上と連携推進



保存活用のための取り組み

歴史文化エリアカルテの作成

歴史文化の重層性を可視化するため、市域内を 15の歴史文化エリアに区画。各エリアの特徴 を記し、歴史文化を表す5つのキーワードごと に受け継ぐべき「もの」「ばしょ」「いとな

み」を挙げるカルテを作成。 広く共有し、保存活用の基盤 情報として拡充させる。



歴史文化エリアごとの戦略

各エリアの現在のまちづくりの方向性や地域コ ミュニティの特性を踏まえ、歴史文化エリアの 文化財の保存活用について、空間的な戦略を設 定する。また、空間的な戦略に基づく企画の遂 行上の戦略を設定する。

「知る」「守る」「活かす」取 組のサイクルの構築

従来からの活動の蓄積をふまえ、「知る-より 戦略的な調査研究の推進や効果的な調査成果の 公開等 - 」、「守る-持続可能な保存管理や修

理復旧等-」、「活かす-都 市の魅力を向上し、文化財を 知る・守る主体の活力につな げる-|取組みの好循環をは かる。



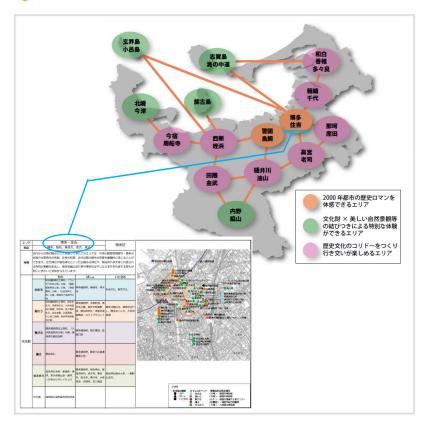
多様な主体による「知る」 る」「活かす」

文化財の保存活用に関わる多様な主体について、 期待される役割を提言したうえで、活躍の場の 創出等を通じ、各主体の意識や技術力の向上を はかる。また、各主体が連携・協力できる体制

を構築するために、横断的な ネットワークづくりに取り組 む。



歴史文化エリアとメインストーリー



本方針では2000年を超える歴史文化を、 始まる・賑わう・繋がる・護る・支え合 うという5つのメインストーリーとして 示した。また、市域を15の歴史文化工 リアに区画し、エリアごとにメインス トーリーを構成する文化財をカルテ化し た。また、エリアを文化財と周辺環境が 構築しうる「都市の魅力」にそって3つ に大別した。

ストーリー

- ●始まる
 - 福岡・博多のはじめてものがたり
- ❷賑わう
 - 2000年の都市のにぎわい
- ₿繋がる
 - 人・物・情報を繋ぐ海陸空の結節点
- ₫護る
 - 国際交流都市の護りと平和への祈り
- ⑤ 支えあう
 - 都市と村々の暮らしと信仰

0

形 成

策定後の成果(見込まれる効果)

歴史文化エリアカルテ を作成したことで文化 史 財と周辺環境が構築し うる「都市の魅力」が 明確化し、戦略的に観 光振興等の資源として 文化財を活用でき、市 域内に、 2000年都市の カ 歴史ロマンを体感でき るエリア、文化財×美し い自然景観等の結びつ きによる特別な体験が できるエリア等が創出 拠 される。 点



0 識 0 高

ま

文化財が「都市の魅 力」に効果的につなが るエリアが創出される ことで、交流人口・関 係人口の増加等の効果 が生まれ、地域活性化 がはかられる。結果、 地域コミュニティ等で 文化財の資源性の認識 が高まり、地域の文化 財を「知る」「守る」 動機が世代を超えて保 証される。



0 0 年 市 0 史文 化 0 継

承

文化財の活用により向 上した「都市の魅力」 がもたらす「活力」に より、文化財を「知 る」「守る」「活か す」取組みが好循環を なす。行政のみならず、 市民、地域、文化財所 有者、NPO、企業、 教育機関といった多様 な主体がこれら取組に 参画し、文化財を継承 していく地域総がかり の体制が構築される。





豊前市【福岡県】 歴史文化基本構想

■策定年度:平成31年3月■人口:26,160人■市域面積:111.10㎢

■担当課:豊前市教育委員会生涯学習課(平成31年3月現在)



かつて「豊国」と呼ばれた豊前地域は、原始より人々の営みの足跡をたどることができる。瀬戸内海や、宇佐神宮に通じる古代官道により交通の要衝として発展し、また求菩提山を中心とする修験道文化を育んできた。近代以降は宇島港を中心に産業の振興が図られ、昭和30年(1955)に豊前市が成立した。こうした歴史的な変遷の中で生まれた多様な文化財を歴史遺産群として総合的な保存活用を図っていく。

5 歴史文化を表す

宇佐神宮への道、求菩提山と修験道、中津街道、瀬戸内海への出発点・宇島港、幕末の千束藩

課題

- ・高齢化、人口減少による文化財の維持と 後継者の問題
- ・更なる活用と、活用に携わる人材の育成

保存活用方針

- ・地域の文化財を把握して保護に活かす
- ・地域の文化財の特性を活かして整備する
- ・文化財を次世代に継承する
- ・地域の文化財を活用する



保存活用のための取り組み

地域の文化財を把握して保護に 生かす取り組み

市内の文化財について情報を総合的に把握し、それぞれの現状や課題、保護対策や活用の方向性を 把握するための文化財カルテを作成、データベー

ス化の推進を図る。また、史跡 ガイドボランティアや地元保存 団体と連携して文化財パトロー ル等協力体制を構築する。



文化財の特性を活かして整備する取り組み

「求菩提山」に係る地域では史跡および農村景観の計画的な整備・保存を実施しているが、その他の文化財についても方針を検討し、周辺環境と共

に整備する。地域内や他の地域を つなぐ散策・回遊ルートの設置、 解説サインや紹介サイトなどの整 備を行う。



文化財を次世代に継承する取り 組み

伝統芸能では既に「豊前神楽」での子供神楽など 次世代への継承を図る取り組みが行われている。 有形文化財の保存継承も含めてこうした文化財の

保存・活用に関係する団体と行政が連携し、保存計画の検討や人材育成を支援する。



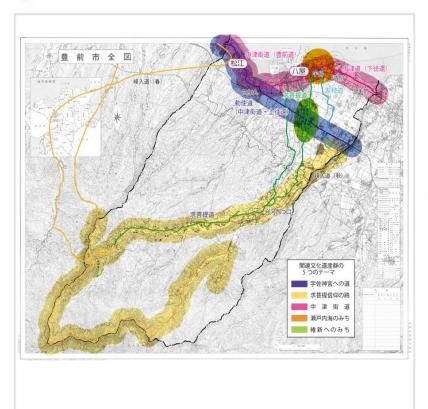
地域の文化財を活用する取り組み

関連文化財群について広く市民に周知するために 文化財を活かす学校教育・生涯学習プログラムの 検討や学びの場としての求菩提資料館、埋蔵文化 財センター等の利活用の向上を

図る。道の駅や各地区の観光施設を含め情報の収集・効果的な発信などの連携を図る。



🧼 関連文化財群と歴史文化保存活用地区



豊前市の歴史で重要な5つのテーマによる関連文化財群の構成要素の場所を元に、計5ゾーンの保存活用区域を設定する。 勅使街道に沿い八幡信仰と深く関わる宇佐神宮への道ゾーン、求菩提山参詣の道を辿り伝統芸能などに修験道文化が息づく求菩提信仰の路ゾーン、近世の小倉~中津の交流を辿る中津街道ゾーン、近代以降の宇島港と海運で栄えた歴史を語る瀬戸内のみちゾーン、幕末~明治の千束藩の面影を残す維新のみちゾーンである。

ストーリー

- ①宇佐神宮への道
 - 勅使街道 朝廷使者と八幡信仰
- ②求菩提信仰の路
 - 修験者を支えた路と里-
- ❸中津街道ー往来と交流 -
- ④瀬戸内海のみち(海路の出発点宇島港) 地域に貢献した小今井潤治 -
- ⑤維新へのみち
 - 幕末に現れた千束藩と武家社会 -

◇ 策定後の成果(見込まれる効果)

める



② 過去の歴史文化資源だけでなく、周辺環境と一体的に保存し活用する必要性が認識され、地域の魅力向上にもつながる。また、まちづくりや農業、

はた、ようフィット展集 観光など文化財行政だけでなく様々な分野との連携を図る必要性が認識され、地域や市内の各団体との連携強化とともに、コミュニティ再生の契機にもなる。

地域の連帯



③次世代への適切な継

承

学校学習や生涯学習、保護活動への取り組み、化催事への取りを通過して、歴史文化資源を後世に継承すべきものとしつながる。その結果としつながる。その結果として無形文化財の後継者養成への世代への適切な継承が進む。





大野城市【福岡県】 歴史文化基本構想

●策定年度:平成31年3月■人口:100,597人■市域面積:27km■担当課:大野城市教育委員会ふるさと文化財課(平成31年3月現在)



大野城市には、特別史跡水城跡・大野城跡、史跡牛頸須恵器窯跡が所在し、古代国防の最前線を担うとともに土器生産の一大拠点であった。また地理的特性から交通・交流の要衝であり、様々な文化財に恵まれている。これらの文化財を地域の資源・宝として活かし、まちづくり、人づくり、にぎわいづくり、そしてふるさと意識の醸成につなげるための計画である。

5 歴史文化を表す

国防の最前線、交流の要、須恵器づくり、 水と農、交通の要衝

課題

- ・未指定文化財の把握
- ・文化財の毀損・経年劣化
- 関連団体等との連携
- 情報発信の手法

保存活用方針

- ・未指定文化財の把握とデータベー ス化
- ・効果的な史跡整備と活用
- 市民・関連団体等との連携強化



保存活用のための取り組み

市民参加型の文化財調査の実施

市内を4つの地区に分け、市民参加型の文化財調査を進める。市民参加を募ることで、効果的な情報収集および参加者自身が地域の魅力を再発見する機会につなげていく。また、成果はデータベース化し、積極的な情報発信を行う。



水城跡・牛頸須恵器窯跡の保存 整備事業の推進

「特別史跡水城跡保存整備基本設計」「牛頸須恵 器窯跡整備基本設計」に基づき、整備事業を進め ている。特に水城跡は、太宰府市にまたがる史跡 であることから、太宰府市および福岡県・九州歴 史資料館と連携して事業を実施していく。



ボランティアガイドの育成、関連団体との連携強化

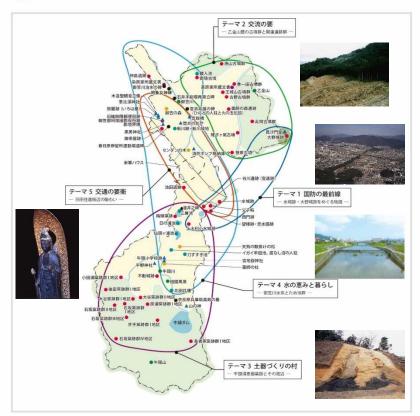
平成23年度から実施している史跡ガイドボランティアの育成事業を引き続き行い、史跡案内の充実と地域に根ざした人材発掘を進める。また既存の文化財関連団体への支援・連携強化を図るとともに、新規団体の設立を促していく。



大野城心のふるさと館の活用

平成30年7月に開館した大野城心のふるさと館を情報発信の拠点として活用する。展示や講座だけではなく、館で行われる各種事業の集客力・発信力を活かしながら、より効果的に文化財の魅力を伝えていく。





大野城市は、福岡平野と筑紫平野をつな ぐ地理的要衝に位置し、古くから官道や 街道を通じて多くのモノや人、情報が往 来した。また弥生時代以来、中国大陸と の交流を示す資料が多く確認されるなど、 様々な地域と有機的なつながりを持つ歴 史文化を育んできた。

こうした歴史文化の特色をもとに、関連 文化財群の全体テーマを「つなぐ つな がる 大野の里の物語」とし、下に示す 個別テーマ・ストーリーを設定した。

ストーリー

- 1国防の最前線
 - 水城跡・大野城跡をめぐる物語 -
- ②交流の要
 - 乙金山麓の古墳群と関連遺跡群-
- ❸土器づくりの村
 - 牛頸須恵器窯跡群とその周辺 -
- 4水の恵みと暮らし
 - 御笠川水系とため池群 -
- 5交通の要衝
 - 日田往還周辺の賑わい-



F.

策定後の成果(見込まれる効果)

水城跡などの指定史跡に 比べて、地域に残されて いる未指定文化財の認知 度は極めて低い。こうし た未指定文化財を、関連 文化財群のストーリーの 一部として再評価するこ とで、各文化財の魅力向 上につながった。こうし た関連文化財群を「地域 0 の魅力」として位置づけ ることで、より効果的な 情報発信が見込まれる。 向



寸 と連

た保存活

これまで、文化財関連団 体との連携を行い、「水 城跡のあかり」「小水城 のあかり」などの活動を 支援してきた。今後、更 なる情報交換や支援を通 じて、連携する関連団体 数を増加させる。関連団 体の増加・充実によって、 多くの市民が文化財の保 存活用に参画することが 見込まれる。



施 \mathcal{O} 有

機的

な 連 携 近年、水城跡、牛頸須恵 器窯跡、小水城跡、大野 城跡登山道、善一田古墳 群などの史跡整備を行っ た。また平成30年7月に は大野城心のふるさと館 が開館した。今後、ふる さと館を情報発信の拠点 としながら、各史跡間、 および館と史跡の連携を 強めることによって、回 游利用者の増加が期待さ れる。





壱岐市【長崎県】 歴史文化基本構想

■策定年度:平成31年3月■人口:26,765人■市域面積:138.57km

■担当課:壱岐市教育委員会文化財課(平成31年3月現在)



壱岐市は朝鮮半島と九州本土の間、玄界灘に浮かぶ島で、古より交易拠点として重要視されてきた歴史をもつ。『魏志倭人伝』に一支国と記され、その王都である国特別史跡原の辻遺跡をはじめ、280基もの古墳や2度にわたる元寇古戦場跡、文禄慶長の役時に兵站拠点となった勝本城跡などの歴史遺産だけではなく、今も農村の「在」と漁村「浦」の暮らしに残されている民俗風習も含め、まちづくりに活かしていく。

5 歴史文化を表す

交易の拠点、一支国、信仰とまつり、異国襲来と勝本城、島の風土と暮らし、

課題

- ・少子高齢化による人口減少と後継 者及び担い手の不足
- ・開発と保存の両立

保存活用方針

- ・景観の保全
- ・調査、収集の推進
- ・保護措置の推進
- ・生涯教育を通じての人材育成



保存活用のための取り組み

景観保全への取組

壱岐市の調査や観光関連の情報提供さらには市民 や来島者からの意見を募り、これら収集した景観 について壱岐遺産の抽出基準に基づいて検討し、

選定する。選定した景観についてはそれに関わる関係者等に協力を求め、特に重要なものについては重要景観計画区域への位置付けを行う。



調査、収集の推進への取組

過去の調査記録にある物件の現状調査等のほか、 市民からの情報提供を重視し、官民協働による調 査収集を推進する。調査収集にあたっては、従来 の指定基準に捉われない新たな視点からの発見を

期待し、そのため壱岐らしさを 物語るそれぞれのストーリーに ついて普及啓発を行っていく。



保護措置の推進への取組

指定・登録文化財を含め、全ての壱岐遺産につい ての価値を明らかにし、それに関わる人々に周知 して指定や登録による保護措置を推進する。収集

した壱岐遺産についてはデータベース等を作成し、一元的に管理するとともに、広く公開を行っていく。



生涯教育を通じての人材育成へ の取組

将来の担い手の育成を目指して、学校教育との連携により児童生徒が壱岐遺産を理解し、親しむことを目指した取り組みを行う。また壱岐遺産に関連する行事等を生涯学習に活用するなどの活動を通じて世代間交流による人材

育成を図る。



0

歷史文化保存活用地区



暮らしの積み重ねが地域文化として色濃く残る壱岐市には数多くの文化財が残っており、特に①弥生時代の一支国の王都として唯一特定され、原風景が今も残る原の辻遺跡や、②古墳が集中する壱岐中央部、さらには③文禄慶長の役により兵站の出城となった勝本城と近世捕鯨で栄えた勝本浦集落は、壱岐の歴史を物語るうえで欠かせない地域である。また自然にも恵まれ、良好な景観を維持している。

ストーリー

- ①一支国の王都と在の景観
 - ・ 原の辻遺跡 ・ 内海湾
 - ・ 安国寺 ・ 深江田原
- 2古代壱岐国の中心地
 - ・ 双六古墳・ 壱岐国分寺跡
 - ・ 生池城跡 ・ カラカミ遺跡
- ❸海のくらしと歴史の舞台
 - ・勝本城跡・勝本浦の街並
 - ・ 舟競争行事 ・ 辰の島

0

策定後の成果(見込まれる効果)

マスタープラ



)歴史文化遺産の保存と

地域活性化に繋げるため、また観光振興の促進のために、適切な文化財保護措置のもとに環境整備を行うための取組に繋がっている。一方では市民が「壱岐遺産」を地域の勢りとして活用していく動きを見せており、文化財に対する関心が高まっているといえる。



③文化財の現状確認と総合的

把

本構想を策定するにあたり、悉皆調査や追跡調査や追跡調査を実施したことになれていたるできたいたることができたの再確認に繋が有ることでは防犯や公開ののできた。更には防犯や公開ののとができばれていまができたができた。対していまができた。





八代市【熊本県】 歴史文化基本構想

■ 策定年度:平成30年12月 ■ 人口:127,306人 ■ 市域面積:681.36㎢

■担当課:八代市経済文化交流部文化振興課(平成31年3月現在)



八代市は、各地の自然地形、交流などの歴史、社会環境により、地域ごとに独自の歴史文化が形成されてきた。市内各所に所在する歴史文化遺産を、周辺環境も含めて総合的に把握することで、歴史文化の特性に基づいた歴史文化遺産の保存・活用の方針を明らかにし、歴史文化を活かした地域づくりの在り方を示すことを目的として「八代市歴史文化基本構想」を策定した。

5 歴史文化を表す

流通と交流の結節点、干拓と石造りの文化、 秘境五家荘の文化、城下町の文化、手永制度

課題

- ・歴史文化遺産の悉皆的な調査及び把握の不足
- ・歴史文化遺産に対する市民の認識と関心の低さ
- ・少子高齢化等に伴う保存活用の担い手不足
- ・歴史文化遺産を活かした地域づくりの効果的な推進

保存活用方針

- ・資料や情報の収集、保存のための取り組みの推進
- ・歴史文化遺産を次世代へ保存・継承していくため の取り組みの推進
- ・歴史文化遺産を活用したまちづくりの推進



保存活用のための取り組み

歴史文化遺産の保存活用に関す る諸計画の策定

文化財を適切に保存活用・継承していくために、 保存管理の基本方針と方法、整備活用の基本方針 等を示した 『名勝不知火及び水島保存管理計 画』・『八代城跡群保存活用計画』を策定してい る。今後、計画に基づき、各文化財の保全、普及 啓発活動などの取り組みを進める。

歴史文化遺産を次世代に継承する取り組み

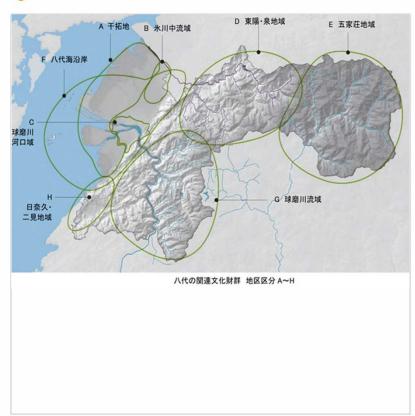
指定等文化財の復元修復・保存に関する事業や「妙見祭」をはじめとした民俗文化財の公開活用や継承・体験に関する事業を通して、市内各地の歴史文化遺産を次世代に継承する取り組みを実施している。

歴史文化遺産の保存活用を図る ための施設の整備

歴史文化遺産の保存活用を促進する様々な方策の一つとして、将来にわたる着実な保存継承とともに、公開による情報発信を行うことで各地域の伝統文化財を活かした本市の活性化が図られるよう、施設の整備を進める。

地域に対する誇りや郷土愛を育 む取り組み

歴史文化基本構想で取り上げた、4つの地域特徴と11の関連文化財群について、地域学習のテーマとして学校教育・社会教育での活用や積極的な情報発信を通して、八代市全体で共有し、地域に対する誇りや郷土愛を醸成する。



八代市の地形や交通などの特徴と歴史文 化遺産の特徴・分布を踏まえ、歴史的な まとまりから考案した地域区分に基づく、 8つの関連文化財群を設定した。

また、地域を越えて市域全体に広がりを もつ「八代を代表する文化」について、 それらが地域の技術的・社会的な発展に つながっているものとして3つの関連文 化財群を設定した。

ストーリー

- ❶近世からの干拓地と、それに関連する文化
- 2 氷川中流域付近で発達した古代からの文化
- ③港を中心として発展した、八代の城下町と 門前町の歴史文化
- 4 氷川流域の生活と歴史文化
- ⑤豊かな自然に彩られた秘境の里
- 6八代海周辺の交流をあらわす古代から中世 の遺跡
- **▽**球磨川下流域の交流と点在する山村集落の 文化
- ◎薩摩街道筋の集落と温泉街
- ⑨八代で花開いた石造りの文化と石橋群
- ⑩八代の近代化を支えた歴史文化遺産
- ①八代と九州各地との交流を伝える伝統芸能

策定後の成果 (見込まれる効果)

策定後、教育現場や各地 域での取り組みにおいて、 歴史文化遺産や関連文化 財群を、地域の歴史文化 の再認識や郷土学習の素 材として活用する機運の 高まりがみられた。今後、 学校等における郷土を テーマとした課題学習等 への活用や、市民が地域 活 の歴史文化の特徴や魅力

を学ぶ際の基礎資料とし

が見込まれる。

ての活用等、更なる活用

連

八代市総合計画や関連計 画に記された各種施策を、 歴史文化の側面から推進 することが期待されてい る。今後、まちづくり・ 教育・産業振興・観光振 興等、あらゆる分野の施 策との連携や、歴史的風 致維持向上計画・文化財 保存活用地域計画などを 策定する際の活用が見込 まれる。

日 申

日本遺産の認定申請を 行った際に、関連文化財 群のストーリーや、歴史 文化遺産を基礎資料とし て有効に活用することが 出来た。市内各所に所在 する歴史文化遺産につい て、周辺環境も含めて総 合的に把握を行っていた ため、スト-リーや、関 連文化財の検討などに反 映することが可能となっ た。

0 活

